

立尾港支那砲艦砲撃事件

支那砲艦保管金塊関件巻尾

外務省

5-1457

0006

秘 急

機密

五  
四

文書課 長 松岡

大正九年九月卅日 發

87

大正九年九月廿八日起草  
大正九年九月廿九日號

別紙

主任  
大正九年九月卅日 發送済

第一課

第二課

要旨付了

主管  
松岡

在 支

小幡 公使 宛

外 國 大 臣

支那の艦隊事情共同調査

判決文等送付一併

5-1457



外 卷 七

本件ニ関シ在尼港範圍書記官ヨリ別紙  
寫ノ通報先有之ハ付右茲ニ及送付

也

(別紙 尼港東特機密ノハ 附送 字塔付)

5-1457

0008

外  
大正九年九月廿一日

秘

第2420號

大正九年九月廿一日 午後十時十五分 北京 局發  
大正九年九月廿一日 午後七時十分 海軍 局着

受信者 次官

發信者 駐邦帝國公使館附武官

四〇番(暗號)電報譯上通

尼流事件共同調査ハ已ニ終了ヲ告ゲ支那各  
負等モ不日当地ニ歸還スルトト思考セラルル所  
本件ニ関スル支那政府ハ交渉ハ共同調査ノ結果  
日本ヲ支那側カ責任ヲ感ジツアル間ニ速ニ開始  
スルヲ得東ナリト思考セラル然ニスレテ彼ノ湖南事  
件ノ如ク慎重審議ノ名下ニ數ヶ月ヲ以テス時  
彼等ノ責任觀念薄ラクハ勿論世論ニ氣兼ねテ  
又ニ交渉永引キ何等結果ヲ見ザルニ至ルノ慮アリ

共同調査

海軍

湖南事件当時發生タル岳州ニ於ケル米國宣放  
師殺害事件ノ交渉ガ事件發生ト共ニ交渉  
セラレタルヲ以テ直ニ片付キタル实例アリ今回ノ尼  
流事件ハ成ニ交渉セラルル方利益ナリト  
思考セラル 身先御参考迄

二十七日

(明正印刷部)

海軍



外務省  
陸軍省  
海軍省  
文部省  
逓信省  
農商省  
内務省  
司法省  
大正九年九月二十五日  
支共同調査日本委員

大正九年九月二十五日支共同調査日本委員

政務局長  
山本

支那

支那砲艦射撃事件日支共同調査概要

5-1457

0010

大正九年九月二十五日

日支共同調査日本委員

支那砲艦射擊事件日支共同調査經過概要

第一調査計畫立案

在尼港支那砲艦ノ日本軍民ニ對スル射擊事件ニ對スル日支共同調査ノ議決定セラルシ委員ノ任命アルヤ各委員ハ八月十五日ヨリ逐次  
ニ港ニ到著集合シ同月十七日ヨリ九月五日ニ亙リ別紙共同調査  
委員打合會會議録ノ如シ諸般ノ打合セヨ行ヒタル結果左ノ如キ  
共同調査計畫ヲ立案シ諸般ノ準備ヲ完了シ以テ支那側委員  
ノ到著ヲ待テリ

支那砲艦問題共同調査計畫

大正九年八月二十四日 調査委員

要領

調査ハ支那側多シテ事實ヲ明白セシムル如ク指導シテ少クモ彼ノ辯明中各所ニ事實上ノ矛盾ト自家撞著ト多ク生ゼシメ論理的ニ帰納シテ其行為ノ自認ヲ避ケ難カラシムル如クスルヲ要ス之カ為支那側ヲ先ツ其調査セル本件ノ事態ヲ詳細ニ説明セシメ事件ノ闡明上重要ナル部分ハ最も綿密ニ陳述セシムルコト肝要ナリ

一般方針

公正ナル立場ニ於テ共同調査ニ従事シ支那側委員ヲシテ概括的ニ次ノ如キ判決ヲ承認セシメ依テ以テ將來ニ於ケル中央部交渉ニ對スル確乎タル根據ヲ得ントス

(1) 三月中旬尼港事件之際ニ在尼港支那官民ハ赤軍ニ對シ

單ニ好意的態度ニ出テタルノミナラス進テ現實的援助ヲ與ヘ之カ暴虐ヲ助長シ為ニ我軍ニ對シ不利ナル結果ヲ誘致セシメタルハ嚴正中立ニ違反セルモノト認ム

(2) 支那砲艦當時ノ情況上ヨリ生ゼル恐怖ノ結果該砲艦ニ接近

セル日本軍民ニ對シ江亨號及利綏號ヨリ前者ハ十二日早朝後者ハ十四日午前共ニ突發的射撃ヲ行ヒタルモノト認ム而シテ之カ實施ニ當リテハ事件ヲ大體ニ於テ左ノ如ク分類シ先ツ支那側ノ中立違反的行為ヲ明白ニシ得タル後射撃問題ニ移リ砲艦迄恐怖ノ餘發作的突發的ニ發生セルモノトシテ應答スルコト肝要ナルハ蓋シ從來支那側カ一般ニ本件ノ事實ヲ否認スル理由ハ主トシテ(當時日支西軍隊ノ關係カスル事件ヲ惹起スル如キ險惡ナル状態ニカラサリシコト及福建



人ハ性温和ニルテ戦闘ヲ好マス等ニ在ルヲ以テナリ

- 一、過激派ノ支那官憲トノ關係
- 二、支那人ノ赤軍加擔問題
- 三、支那砲艦ノ赤軍ニ對スル火炮貸與問題
- 四、支那砲艦ノ射擊問題

調査ノ實施

第一期

- 一、共同調査ニ移ルニ先キ第一二次ノ件ヲ協定スルヲ要ス
- 二、使用言語 日本語ヲ主トシ支那語ヲ從タラシムルコト
- 三、交渉場所 尼港トシ支那砲艦ハ尼港ニ廻航シ昨冬營ノ位置ニ在ラシム
- 四、調査豫定日数 支那側ノ希望期間
- 五、調査結果發表 本件ハ調査完了後兩國政府ニ於テ同時ニ

之ヲ發表スルコト

第二期調査

- 一、日本委員ノ張領事及陳艦長談話概要提示
- 二、右提示ニ續テ之ニ對スル日本委員ノ各種質問

第三期

支那ノ言明ニ依リ得タル資料ト我有セル資料ヲ彼此對照シ支那側言明ノ明確ナラシム點及我資料ト相異ル點ニ就キ各種ノ質問ヲ試ム

此間殊ニ支那側答辯ト支那側ノ現ニ言明セル事項及我ノ有ルニ資料ト關係中彼此相撞著スル點ヲ指摘シ彼等ヲシテ其辯明カ事實何等ノ根據ナキモノナルヲ自覺セシムル如ク指導ス

第三期





第一期第二期に於ける調査の結果を基き支那側ノ答辯及  
調査資料ハ矛盾多ク何等ノ權威ヲ認ムル能ハサルに反し我  
ノ有スル資料ト調査ニハ一貫セル脈絡アリ且支那側ニ之ヲ  
打テ消ス大ケノ反証無キ限り結局我トシテハ上記一般方針  
ニ陳ヘタル如キ判決ノ歸納セシメサルヲ得スト宣言ス

細部ノ注意

實施第一期ニ就テ

一我委員ノ質問ニ對シ支那側ヨリ先ツ其觀得シ乃至調査  
セル當時ノ情況ニ就キ詳細ナル答辯ヲ為サシムルコト絶對  
ニ必要ナリ然レトモ支那側トシテハ自ラ先ツ材料ヲ提供スル  
コトノ不利ヲ感スヘキヲ以テ概ネ左ノ如キ言辭ヲ以テ之ヲ  
拒ミ先ツ日本側ヨリ所要トスル調査事項ニ就キ陳述セ  
ムコトヲ要求スルモノト期セサルヘカラス即チ

元來本件ノ如キ支那側ニ於テハ毫モ問題トスル價値  
ナキモノト認メカハモ唯小幡公使ノ切ナル希望ヲ容レ其  
面目ヲ尊重シテ共同調査ニ應ジタルモノナルヲ以テ此際  
支那側トシテ進テ實情ヲ陳述スルノ義務ナシ宜ク日  
本側ヨリ先ツ其疑問トセラルル件々ニ就キ詳細ナル説明  
アリ之ヲ基礎トシテ調査ニ入ルヲ至當トスヘシ  
然レトモ我トシテハ要領ニ示シタル如ク徹頭徹尾支那主張  
ノ事實ニ非スレテ捏造セラルルモノナルコトヲ證スルヲ以テ主  
張トセサルヘカラス從テ先ツ委曲支那側ニ陳ヘシムルノ要アリ  
故ニ前記第一調査實施順序ニ於ケル張領事及陳艦長  
談話概要提示並ニ對スル質問ノ態度ハ支那人ノ特性  
ニ鑑ミ極メテ無造作ニシテ不知不識ノ問彼ヲシテ我希  
望ニ從ハシムルコト絶對ニ必要ナリ而モ尚彼之ニ應セサルニ於

テハ我トシテハ飽ク迄本問題ハ從來ノ事件ト全ク其類ヲ異  
コシ不幸ニシテ我ニ一名ノ生存者無ク事態ハ總テ間接的手  
段ニ依ルノ外策ナカリシモノタルヲ以テ當時同事件ニ接觸シ  
事態ニ最モ通曉セラルルハキ支那側ヨリ其見聞且自己  
カ實行セラレタル諸件ニ就キ我質問ニ應セラルルハ本調査  
施行上當然ノコトナリト理由ノ下ニ嚴格ニ之ヲ望ムヲ要ス  
ニ張領事及陳艦長談話概要ニ對スル質問ハ我憑據等  
ヲ以テスル詰問ニ非サルコト勿論ニシテ單ニ事件ニ最モ重  
要ナル關係ヲ有スル部分ニ對シ更ニ詳細ナル解説ヲ要求  
シ以テ調査上之ヲ支那側ノ言質ト為スニ止ム而シテ特ニ  
注意スルハキ要點概本別表ノ如シ

第二期ニ就テ

第二期ニ於ケル計畫ハ第一期調査ノ結果ニ依ラサレハ之ヲ決

定シ得スト雖我有スル資料ハ概未左ノ順序ニ依リ之ヲ利用  
スルモノトス

一、領事ノ態度

イ、支那領事ハ一月下旬過軍ニ對シ速ニ尼港ヲ占領ス  
ルハキヲ要求セリ

ロ、支那領事ノ三月十六日ニ於ケル演說要旨

ハ、支那軍隊ノ葬儀參加

ニ、支那領事ノ公定價格設定

ホ、支那居留民保護ノ為取ル領事ノ處置

ヘ、支那領事ノ露國政府金塊受領及之カ保管ノ件

二、支那居留民ノ赤軍加擔

イ、赤軍ノ兵員數ト支那人等ノ關係

ロ、支那人ノ赤軍加擔人員及其詳細



八支那赤軍ノ戦闘参加ノ期間及光景(傷者)  
 二何故ニ赤軍加擔ヲ防止セサリシヤ  
 三、火炮貸與ノ件  
 一、火炮ハ何レノ軍ニ如何ニ貸與シタルヤ  
 二、火炮ノ返還ヲ受ケタル時機ハ如何  
 八二門ヲ白軍ニ一門ヲ赤軍ニ貸與シタリ  
 四、射撃問題  
 一、風説  
 二、露人ノ目撃者  
 八支那人ノ談話

6



支那砲艦問題 証據資料利用順序

一、方針

一、証據ハ第一ニ証言人其他資料ノ確實性最大ニシテ而モ支那側ノ比較的認容シ得ルト推断セラルモノヲ提出シ一ハ以テ我資料ノ確實ナルモノナリト暗示ヲ英へ他ハ以テ交渉ノ進捗ヲ容易ナラシム

二、右ノ如ク其英へシハ暗示ヲ利用シ各種ノ資料ヲ事件ノ經過ニ從テ應用シ彼ニ對シ我論據ノ條理一貫セル資料ニ基クモノナルコトヲ自覺セシム

三、最後ニ於テ問題解決ノ鍵ヲハキ確實性ヲ有スル資料ヲ樞軸トシ綜合的資料ニ依リ我斷定的主張ノ正當動カスヘカラスルコトヲ認容セシム

二、利用順序

右方針ニ基ク資料ノ利用ハ共同調査計畫ニ示ス如ク調査ノ第一期ヲ完了シ支那側ノ言質ヲ取リタル後ニカサレハ之ヲ決定シ得サルヘト雖其大要ヲ豫定スルコト別表ノ如シ

支那砲艦問題資料一覽表  
領事の関する件

提出順序	資料内容摘要	証人及証據物件	番號
一	八軍葬儀に於て支那儀仗兵参加	トルコフスキー グバリーノフ	四ノ三 四ノ四
二	支那軍隊八四回一回葬儀に隊旗を以て参加	リシツツア トルナオグシエロムスキー	四ノ八 七ノ二
三	二月二十九日赤軍入市の時支那会館の赤旗を樹て支那軍隊八回旗を樹て之を以て迎つ	ミハイロウエチキン	七ノ二
四	支那砲艦ニ赤軍ヨリ石炭供給ノ件	ペーティニコフ外人	四ノ二
五	支那商人の貨物の對し公定價格ヲ定ム	蘇卿奎及永吉等ノ証言	二六
六	支那領事ハ自由貿易禁止ノ協議を参加セリ	尼港執行委員会ノ告示	四ノ八
七	トルヒーチンハ支那領事ニ金十布度ヲ與ヘタリ	グバリーノフ	四ノ二
八	物資供給	姜左臣	一八
九	支那砲艦ニ與ヘタル物資計算	ブリウエック紙	二三
一〇	支那領事ハ過軍カ速ニ尼港ヲ占領セリトコトヲ宣	マキリーエフ	四ノ八
一一	支那会館カ支那八軍ニ對スル資金供給ハ不正認ム	支那領事	五ノ七
一二	赤軍ノ招待ニ對シ支那領事館通譯ヲ派遣セリ	支那領事	五ノ九
一三	ソウエト會議ニ於テ支那領事ハ演説セリ	レウイン著	四ノ九
一四	赤軍ト支那側ノ電報關係	グバリーノフ ロジノフスキー	四ノ二 二九



支那砲艦ノ砲貸與問題

提出順	資料内容摘要	証人及証據物件	番號
①	三月十三日赤軍本部ニ於テ機製作ノ際支那砲ヲ得タルヲ聞ケリ	ステパネニコ	四ノ六表
②	支那砲貸與ノ詳細	クバーノフ	四ノ七表
③	二門ノ砲ヲ赤軍ニ貸與セリ	リチウインツオフ	四ノ八表 (不在)
④	三月十四日二門ノ大砲ヲ赤軍ニ貸與射撃ス	ペカーベ	四ノ九表 (不在)
⑤	支那砲艦ハ赤軍ニ對シ砲彈藥ヲ貸與ヘタリ	カウリホニコ、ペヨートル	四ノ一〇表 (不在)
⑥	赤軍ニ二門ノ砲ヲ貸與セルヲ聞キタリ	ステパン、トルコフスキ	四ノ一一表
⑦	日本領事館砲撃ノ際支那砲ヲ使用セリ	エゴロフ	四ノ一二表
⑧	支那側ハ當テ白軍ニ砲ニ門ヲ貸與セリ	ミハイロウイチ、キン	七ノ一表
⑨	赤軍ハ砲ニ門ヲ得テ領事館ヲ射撃セリ	コーロッド	七ノ二表
⑩	砲彈ノ供給ヲ行ヒタリ	ミハイロウイチ、キン	七ノ三表
⑪	大林区署附近ニテ支那砲水兵指導ニテ射撃	グリバノフ	三ノ一表
⑫	「ミル」ノ砲ニ支那五連砲ト水兵ヲ同撃ス	ズブロウエー	三ノ二表
⑬	支那士官「トリアー」ト對話中砲對話ヲ聞ケリ	カバーノフ	三ノ三表
⑭	砲ハ三門ノ白軍ニ貸與シ内ハ赤軍ニ奪取セリ	陳ノ談(委實)ヲ	一四表

5-1457

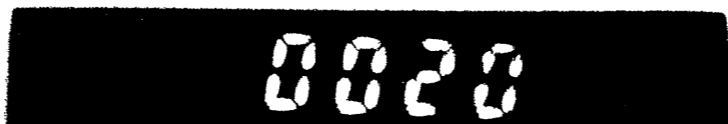


出席	資料内容摘要	証人及証據資料	番號
(出) 一	砲艦ヨリMGニテ一齊射撃ヲ行ヒタリ	グバーノフ	四ノ三
(出) 二	三月十四日支那砲艦ハ射撃セリ	ステパネレコ	四ノ六
(出) 三	日本領事館戦艦ハ砲艦ニ走ル日本兵ヲ射撃	リシーツァー	四ノ六
(出) 四	日本兵若干支那砲艦ニ向ヒタルトキMGハ銃射撃ヲ行ヒタリト聞ク	ウエゴジヤンスキー	四ノ二
(出) 五	三月十二日戦艦ニ於テMGニ依ル射撃ヲ自撃セリ	リチウインツォフ	四ノ五(表)
(出) 六	三月十四日支那砲艦ハ自兵射撃ヲ電信局高地ヨリ見	コンドラチエンコ	四ノ五(裏)
(出) 七	三月十四日日本軍力氷上ニ出テハ際射セリト實見	ウオエチエノフ	四ノ六(不詳)
(出) 八	三月十四日支那砲艦ハ射撃セリ	ペカーベ	四ノ六
九	砲五門日本領事館ヲ射撃セリト見エルトナリ	クラウクスト	四ノ七
一〇	射撃セシハ利綏ニカラス江亨ナリ	王火生	一七ノ一
一一	軍艦ノ射撃ヲ聞ケリ	姜左臣	一八
一二	射撃ヲ聞ケリ	張斗星	二一ノ二
一三	領事館ヨリ退却セ日本兵ヲ射撃セルヲ聞ク	ウラジミルフォルメーフ	三三
一四	日本兵四〇名氷上ニ出ツルハ射撃セリ(水先案内談)	アレキサンドロウエチキン	六ノ二(表)
一五	三月十四日戦艦ハ日本兵砲艦ニ向テ射撃セリ	朝鮮人キン	四ノ八(表)
一六	三月十四日支那砲艦ハ射撃セリ(支那コソノ長談)	ポシエロムスキー	四ノ七
一七	領事館戦艦ハ日本兵砲艦ニ向テ時射撃セリ	エミリヤノフ	四ノ四
一八	支那砲艦ノMG射撃ヲ聞ク	コーロツド	四ノ五
一九	三月十四日支那砲艦ハ射撃ヲ交換局ヨリ出ル時自撃セリ	クハルチウク	三二
二〇	支那官トリヤロイトト談話射撃問題ヲ語ル	グバーノフ	四ノ六
二一	或夜向衣ノモノニ對シMG射撃ヲ為シヤリ	松平氏	一六
二二	支那兵員各營ノ現況(七十二名キンノ家)	アレキサンドロウエチキン	六ノ一(表)
二三	全	ミハイロウエチキン	七ノ一
二四	百「サレエ」以内ニ入ルヲ禁ス	蘇卿奎	二六

支那砲艦射撃問題

証人及証據資料

番號



順出	資料内容摘要	証人及証據物件	番號
一	支那水兵の軍参加(三名内二名同撃)	エゴローフ	四ノ五
二	支那砲艦之赤旗ヲ揚ケタル事ヲ聞ケリ	エメリヤノフ ヒリヤノフ ハエロムスキー	四ノ六 一三
三	支那水兵名赤軍ト共ニ領事館攻撃参加	ウエゴズヤルスキー	四ノ六
四	右同 (右聞ク)	フシエロムスキー	四ノ七
五	十四名ノ支那隊ハ(王官)指揮ヨリ領事館攻撃参加	ヒハエロウエチキン	七ノ四
六	市立男子學校赤十字社支那水兵負傷者同撃	ステパノフ	四ノ八
七	第七通り日人家屋入り日兵ヲ水兵射撃焼打セリ	クハルチエウク	三二
八	水兵二名支那砲射撃ヲ教ヘタリ	右同	右同
九	七名ノ支那水兵第七通りニテ日本人家屋に入りタル日兵ヲ射撃セリ	ウラジミールワルホルメーフ	三三

支那側戦闘参加ノ件

二五	砲艦ノ周圍四面サリジエンニ入ルノ射撃	朝鮮人、キン	四ノ八
二六	右同	アレキサンドロウエチキン	六ノ二

12

5-1457

0021



第二 共同調査経過

九月六日

午前九時三十分支那委員一行六名尼港軍司令部に到着ス  
直に會議室に於て西委員ノ對面紹介アリ次で花岡首席  
委員ヨリ左ノ件ヲ提議ス

一、會場

本館食堂ヲ以テ會議室トス

二、支那砲艦

砲艦ハ豫メ當方ノ注意ニ依リ本日午前九時  
「マカ」發當地ニ下航ス

三、使用語

支那側ニ日本語ヲ能クスルモノ多キヲ以テ大  
體日本語ヲ使用シ不明ナル場合支那語ヲ  
以テ之カ補助ト為ス

四、會場出場者

日本側出場者ハ名簿(之ヲ提示ス)ノ如クナル  
ヲ以テ支那側ニ於テモ之カ名簿ヲ呈出セラル

五、陳艦長、張領事其他事件關係者ハ事態ノ説明上必要

ノ場合會場ニ出席スル如ク規定スルコト

右提議ニ對シ支那委員一同賛意ヲ表示シ本日ノ會見ヲ終ル

九月七日

一、午前九時二十分開會。開會劈頭席未夕沈靜セサルニ陳委員開口一番會議ノ順序ハ云々トテ委員權限問題、會期及調査内容發表問題ニ就テ質問的ニ其希望ヲ述ヘ花園委員之ニ對シ日本側ノ希望ヲ述フ花園委員立チテ挨拶ヲ述、陳氏之ニ答ヘ爾後我委員主導的地位ニ立チ會議ヲシテ豫定ノ計畫ニ向ハシムルヲ得タリ、權限問題ニ關スル被等ノ主張ハ勿論時トシテハ真否ノ判断ヲモ之ヲ中央部ニ於テ行ハントスルノ風無キニアラサリキ是ニ於テカ帝國委員ハ豫定ノ計畫ニ基キ不知不識ノ向ニ之カ真否ヲ判断セサルヘカヲサル如ク會議ヲ指導スルコトトスルノ決心ヲ取ルニ至リ

事ノ出席ス張領事ハ帝國委員ノ各種質問ニ對シ時々質問以外ノ事ニ迄言及セシトシ五委員及沈委員ヨリ注意ヲ受クハコト再三ニ及ヘリ是レ張領事ノ心中平靜ヲ缺キ事件ニ對スル不安ノ然ラシムル所タルヤ論ナシ  
論事ヲ惹起スルコトアルニキ多ク中止セシモノナリト  
本夜會議録照合ノ際ニ於テ沈委員ト土肥原委員トノ間ニ雜談アリ此間時々事件ニ觸ルルコトアルニ至ルヤ沈委員ハ盛ニ事理ヲ解セサルモノアルハ誠ニ困リタルモノニテ若シ當方面ニ本語ヲ解シ日本ヲ了解スルカ如キモノ在リタラシハ本事件ヲ幾スルカ如キコトナカハハト切言シ暗ニ事件ノ存在ヲ認ムルト共ニ陳艦長ノ人物ヲ輕侮スルノ風アリ是ニ於テ土肥原委員ハ本事件ヲ小範圍ニ局限セシカ爲マカ守備中陳艦長ト談合大ニ意思ノ疏通ヲ圖リタリシモ遂ニ陳艦長之ヲ容レス

シテ今日に至レルヲ遺憾トスト述ヘタルニ沈委員ハ更ニ前  
言ヲ繰返シ且今後ハ委員中日本語ヲ解シ日本ヲ解ス  
ルモノアル故決シテ然ルハキ様ノコトナカルヘシト語レリ

九月八日

午前九時二十分ヨリ陳艦長ニ對スル日本委員ノ質問ヲ行フ艦長  
ハ何物カ記録ヲ手ニ頗ル興奮セル態度ヲ以テ昨日日本委員  
ノ指示シタル談話摘録ノ修正ヲ行ヒツツ當時ノ戦闘状況ヲモ  
フル所アリ遂ニ日本委員ノ質問ニヨリ不干涉問題ニ觸レシ  
スルニ至ルヤ沈委員ノ怒氣ヲ帶ヒタル注意ヲ受ケ陳艦長頗  
色蒼然トシ更ニ沈委員及王委員ノ注意ヲ受ケタル為支  
那側一同騒然タルモノアリ而モ陳艦長ハ遂ニ不干涉ヲ宣言  
シタルコトナリタリ本件ニ関シテハ會議録照合ノ際沈委員  
ニ於テ當時之ヲ訂正シリトノコトヲ申出テ日本委員ノ質

問ヲ打消スカ又ハ不干涉宣言ノコト無キヲ記入セラレタリト  
コトナリシニ會議中ノ無カリノ故ヲ以テ本件ハ未決トナレリ  
陳艦長ノ戦況説明ハ極メテ單簡ニシテ事件當時尼港ニ  
在リテ之ヲ目撃シタル武官ノ説明トシテハ頗ル不十分ナル感  
ヲ抱カレタリノミナラス當時艦内ニ在リタルヲ以テ状況ヲ視  
察スルヲ得ストテ其遁辞小兒ノ如キモノアルハ是レ彼カ努メテ  
言質ヲ避ケントスル焦慮ノ結果ニ外ナラスト察セラレタリ之ニ  
比シ張領事ノ戦況並ニ爾後取りタル處置ニ関スル説明ハ却  
テ冗長ニシテ恰モ自己辯解ノ態度ニ出テ議場情氣滿々タ  
リ沈委員ノ如キモ會議録照合ノ際本日領事ノ説明ニハ價  
値ナキコト頗ル多シトテ暗ニ之ヲ攻撃スルノ言動ヲ示セリ  
午前會議結了後更ニ委員ノ権限問題ニ関シ討論アリタルモ  
會議録照合ノ際ニ至リ異論ヲ生シ再ヒ之カ結着ヲ見ルヲ得

ス

九月九日

調査の豫定ノ如ク進捗シ念々領事ノ態度ニ関スル証人ノ提  
 供トナリ証人會場ニ出テ支那側委員トノ間ニ各種ノ審問  
 應答ヲ行フ之ニ對スル支那側ノ意嚮ヲ察スルニ彼等ハ露人  
 其他ノ証人ノ証言ハ何等ノ價值ナレトテ概括的ニ否定シ去ラ  
 シスルモノノ如ク現ニ沈委員ノ如キハ會場ニ於テ此種口吻ヲ洩シ  
 發言シタルノミナラス更ニ夜間會議録對照之際ニ談話ノ際  
 王委員ノ言ニ托シ無價値ナル証言人等ノ調査ノ為時日ヲ  
 空費スルノ不利ナルヲ述ヘタルカ如キ是ナリ之ニ對シ我委員ニ  
 於テハ土肥原少佐個人トシテ事件ハ各方面各種ノ資料ニ基  
 キ調査ヲ行ヒ之カ判断ヲ冷靜ニ行フヲ要ス徳ニ感情ヲ捕  
 ハレ何等ノ論據ナク事態ヲ否認スルハ適當ナラス事ハ論理ノ

16

一貫ヲ必要トス之レカレニ於テハ其發言者ノ何人タルヲ論セサルナ  
 トテ暗ニ支那側主張ノ不適當ナルコトヲ風示セリ殊ニ張領事ノ  
 言動ニ至リテハ事極メテ滑稽ニ屬スルモノアリ彼ハ遂ニ第三國  
 ヲ引入レテ之ヲ論争セト迄陳述スルニ至リ  
 本曰支那人孫亭雲ナルモノノ金塊問題ニ對スル願書ヲ示レテ  
 ル際陳委員ノ顔色変シ氣色甚シク不良トナリ如何ニモ當惑  
 ノ色アリ支那人ノ証言ハ露人ノ証言ノ比ニカラス是レ今日支那  
 人ノ頭中ニハ露人ヲ侮蔑スルノ大ナルモノアルニ及シ同國ノ人民中而  
 モ他ノ事ヲ願出テシル書類中ニモ亦斯ノ如ク支那側ノ為不利  
 ナル事項アルニ於テハ爾後如何ナル証人アルヤモ計ラレストノ感ヲ  
 興ヘタレハナリ

九月十日

會議ハ豫定ノ如ク進捗シ三月事件當時支那水兵ノ多数陸

上ニ在リレ件ニ関シ証人ノ出場支那委員ノ訊問等アリ逐次進  
テ「エゴ」ロツナルモノ出場説明スルニ至リ事件ハ遂ニ在陸上支那  
水兵カ日本領事館攻撃ニ参加シタリトノ事ニ及ヒ其真相ヲ談ル  
ニ至リ支那委員一同驚愕シ陳氏ノ如キハ顔色蒼白ニ變シ今  
ヤ右証人ニ對シ質問ヲ為ス勇氣ヲ失ヒタルノ觀アリ今日迄  
冷靜能ク事ヲ處シ支那委員中ノ中心タリシ沈委員ノ如キハ  
今ヤ全ク冷靜ヲ缺キ不安ノ色言動ニ現ハルニ至レリ陸上ニ於ケル  
支那水兵ノ射撃問題ハ全ク彼等ノ豫期セザリシ所ニシテ而モ數  
日來調査ノ際陳艦長ハ三月事件當時支那水兵悉ク艦船内ニ  
在リタリト云ヒシニ對シ本回事態ヲ熟知セル露人カ悉ク支那水兵  
ノ陸上ニ在リタルコトヲ述フルニ及ヒ委員等モ亦艦長領事等ノ言  
ニ不安ヲ感スルニ至リタルヤ勿論ナリ午後ニ至ルヤ王委員病氣ノ  
故ヲ以テ欠席スルニ至レリ

領事モ今ヤ全ク自暴自棄的態度ヲ持レ凡テノ事ヲ否認セン  
トスルノ風アリ室ヲ退場スルノ状ヲ失スルノ風アリ

九月十一日

支那水兵ノ三月事件當時陸上ニ在リタル件ニ関スル有ラユル証  
人ヲ出場セシメ暗ニ陳艦長領事等ノ説明ノ虛疑ナルコトヲ  
諷示証明セシム証人ノ説明ハ逐次其歩ヲ進メ遂ニ支那水兵カ  
其貸與セル砲ノ操法ヲ赤軍ニ指導セルコト及日本兵ノ退避セルモ  
ノヲ射撃セルコト等ノ事ニ及フヤ支那委員會モ色ヲ失ヒタルモノ  
如ク更ニ日本委員ヨリ進テ當時林艦長ノ宿泊セル家主タル朝  
鮮人金氏ト林利捷艦長トノ對決調査ヲ希望スルヤ支那委  
員ハ諸種言辭ヲ弄シテ之ヲ避ケントスルノ風アリモ我委員ノ  
窮斷的要求ニヨリ明日ニ於テ之カ對決調査ヲ行フハキヲ約ス  
ルニ至レリ

本日午後會議ノ狀況ヲ見ルニ彼等ハ全ク何等ノ準備モナク  
極メテ不用意ニ當地ニ来リタルモノノ如ク又各委員ノ間何等一  
定ノ纏リタル態度方針ナキカ如シ殊ニ王委員ハ今ヤ事件ニ関  
シ點ヲ投ケタルニカラスヤト察セラレル点ナキニカラス今日トナリテ  
彼等如何ニ強辯ヲ弄スルモ事實ノ存在ハ否定スヘカラサルカ如シ  
本夜會議録對照ヲ行フハカリシト時ニ及ビテ沈委員ハ急ニ發  
熱ノ故ヲ以テ之カ中止ヲ申出テ未リタリ是レ失望ノ餘ニ出ツルカ  
又ハ明日ノ會議ニ對スル彼等ノ打合せノ為ナルヤ其何レニスルモ彼  
等カ逐次困難ナル狀況ニ陥リツツアルハ之ヲ察スルニ餘アリト謂フ  
ヘシ

九月十三日

昨日調査ニ際シ稍々金氏カ自己ニ好都合ナル陳述ヲ為シタルニ  
カ多御アルモノニヨリ本日ハ稍々決心ノ態ヲ以テ調査ニ従事セリ  
タリ但シ王委員ハ依然トシテ不安ノ體ニテ本事件ヲ某程度  
ニ認メントスル狀況ニアリ

九月十三日

本日砲貸與問題トナリ支那水兵カ該砲ノ使用法ヲ指導セリトノ  
証人出テ且一部ノ証言人ハ砲艦ノ射撃問題迄ヲ陳述スルニ及ビ  
支那委員ノ不安増大甚シク殊ニ陳艦長ハ其苦痛ニ堪ヘサルモ  
ノノ如ク遂ニ兩手ヲ以テ面ヲ覆フニ至レリ本日ノ態度ニ於テ之  
ヲ見ルニ射撃ヲ行ヒ砲ヲ貸與セル事等ハ事實ナルヘシト人感想  
ヲ深カラレメタリ

本日會議後王委員我委員ト食ヲ共ニ種々談合スル所ヲ見  
ルニ彼等ハ一ニ事件ヲ小問題トシテ解決セラレシコトヲ切望シアリ  
且某程度迄本事態ヲ認メアルノ言動アリ本夜沈委員ノ會  
議録對照ノ際ニモ亦此件ニ就テ其意ヲ洩セルカ如シ



九月十四日

昨日王委員ト會談ノ結果我方ノ意圖ハ必スレモ酷ナラスト思考セル為カ大ニ安心ノ色カリ証人ノ如キニ對シテモ多クハ調査セサラントスルノ風カリシカ調査歩ヲ進メテ遂ニ日本委員ノ陳艦長ヲ尋問トナリ陳艦長ノ陳述誠意ヲ缺クモノアリ認メ追及甚ク急ナルモノアリ及ヒ陳委員長及王氏ノ不安極メテ大ナルモノアリ陳委員ノ如キハ残りテ土肥原氏ニ事情ヲ私語シテ彼等ハ尙日本委員ノ態度ノ強硬トナルコトナキヤラ恐レアルカ如シ

九月十五日

昨日ヲ以テ証人調査ヲ終リシ本日ヨリ實地調査ヲ實施セリ現地ニ於テ支那水兵ノ戰鬪参加及砲艦ヨリ射撃セル件ニ關シ証言人ノ現地説明及之ニ對スル支那側委員ノ尋問應答アリタルモ多クノ証言人ノ言ハ凡テ多少前回會議場ニ於ケル

場合ト差アリ又其態度モ時トシテ証言ノ確實性ヲ疑ハシムルモノアリ之ニ及シ支那側ヨリ出セル水兵三名ノ負傷者ノ説明ハ概シテ要ヲ得タルモノアリ本日ノ狀況ニ於テ陳氏ノ如キハ時トシテ証言人ノ價值ナキコトノ口吻ヲ洩セリ

九月十六日日本支那砲艦及利川號ノ實地調査ヲ行フ其結果彼等カ事實ヲ掩ハシトスル事ハ各種帳簿ノ改綴、隱蔽及三月事件前後ニ於ケル石炭其他燃料ノ出納ノ記入ナキ等ノ事ヨリ之ヲ發見スルヲ得直ニ現場ニ於テ委員長ニ對シ三月事件當時支那兵員ノ大部カ陸上シカリタル事ヲ詰問スル所アリタル陳氏ハ林艦長ニ對シ艦長ハ殆ト水兵ノ多數カ陸上ニ在リシト認スルノ狀況ヲ呈セリ是レ本問題ニ對シ決定的打撃ヲ與ハタル唯一ノ素因ナリ陳艦長以下事件當事者ハ事件當時水兵ノ大部陸上ニ在リタル事ヲ今日ニ至ル迄始終否認シ来リ

支那委員亦此主張ヲ認容スヘク信號簿ノ隱匿日誌ノ改  
綴記述換等各種ノ方法手段ヲ盡シタルモ遂ニ其智ハ燃料出  
納簿ニ及フ能ハス我委員ノ發見スル所トナリ我委員ハ茲ニ其  
主張ヲ對シ絶大ノ確信ヲ有スルニ至レリ

是ニ於テハ彼等支那委員ハ既ニ茲數回ノ會議ニ於テ我計  
畫ニ當リ証言人ノ陳述ニヨリ事件ノ存在ニ對スル肯定的暗示  
ヲ與ヘラレリタルニ本日右砲艦ノ書類ニヨリ全ク之ヲ否定スル  
コト能ハサルニ至リ態度遂ニ軟弱トナリ我委員ニ對シ哀ヲ乞  
フニ至レリ

自九月十六日夕  
九日未支那側委員ノ狀態ニ多少動搖ノ徴ヲ見ルニ至リ  
且彼等ノ口吻ニ依ルモ尙々某程度ニ於テ我ト妥高シ以テ  
本調査ヲ一日モ速ニ打テ切ラントスルノ意嚮アルヲ認メ又一方

之於テ中央ヨリ本問題ニ對スル九月十日我商議ノ結果ノ通  
報アリ以テ我要求程度ヲ知り得タルト我海軍大臣ヨリ海軍  
委員ニ對シ不日尼港ニ出張スヘキ支那海軍少將龍仁識 劉華武  
ノ到著前ニ本件ヲ始末スルヲ有利トスルコト及支那軍艦ノ  
後始末上少クモ結氷期前其行動ヲ許ス期間内ニ於テ是  
非トモ之ヲ終ラスルノ要アリトノ内訓アリニ事等ヲ綜合シ此  
上彼我兩委員カ會場ニ於テ討議スルハ徒ニ多數ノ時日ヲ  
要シ且事態ヲ紛糾セシメ或ハ結局所謂水掛論ニ終ルノ虞  
ナキニ惟テ依テ日本側ハ土肥原少佐支那側ハ沈大佐ヲ以テ代  
表ト爲シ各兩方面ノ意嚮ヲ體シテ兩者意見ノ接著ニ努  
ムルコトニ約定セリ

西代表委員ハ十六日午後八時ヨリ内交渉ヲ開始シタリ當  
初我ヨリ提出セル原案左ノ如シ



共同判決要領

一、駐尼港支那副領事張文煥ハ馬賊ノ如キモノト認メタル赤軍ニ對シ抑留民保護ノ必要上交渉セルハ敢テ咎メサルモ徃々箇人的ニ好意的行為ヲ為シタルハ遺憾ナリ

二、赤軍尼港ニ近接セル時支那軍艦江亨艦長陳世英ハ白軍トノ間ニ軍艦ノ周圍一定限界内ニ立入ルモノハ直ニ之ヲ射撃スヘシトノ協定ヲ為シ白軍ハ之ヲ新聞紙上ニ公示シ艦長ハ之ヲ部下諸艦ニ命令セリ其後赤軍入市セルモ陳艦長ハ別ニ該命令ヲ改メサリキ然ルニ日赤兩軍戰鬥中三月十二日未明何者カ軍艦ニ近ツクヲ認メ監視兵ハ直ニ之ニ射撃ヲ加ヘタリ天明ト共ニ日本兵三名ノ死屍アルヲ知り急遽氷上ニ穴ヲ穿テ之ニ投シテ隱匿セルト圖リタルモノアルハ遺憾ナリ

三、軍艦江亨艦長陳世英ハ赤軍尼港ニ近接セル時白軍ノ恫願ニヨリ五十七密砲ニ門ヲ貸與セシカ後日赤兩軍戰鬥中赤軍ノ強要ニ依リ已ムヲ得ヌ五連裝砲一門ヲ之ニ貸與シタル形跡アルハ頗ル遺憾ナリ

四、日赤兩軍戰鬥ノ際市内ニ在リシ支那水兵ノ若干ハ武装シテ市内ヲ徘徊中日本兵ヲ射撃シ又或ルモノハ赤軍ノ強要ニヨリ五連裝砲ノ操法ヲ教授シタル形跡アルハ遺憾ナリ

理由ノ概要

一、前日來十七次ニ亙ル會議中張領事及陳艦長等ハ概シテ絶對ニ證言者陳述ノ事實ヲ否認シタルモ會議録ニ示ス如ク兩官ノ陳述ニハ前後矛盾顯著ノ點多ク從テ其言明ニハ何等ノ權威ヲ認メ難キヲ以テ日本側委員ハ一般적으로公平ナル推理ト証言トニ基キ右ノ如ク判決スルノ極メテ妥

當ナルヲ信スルモノナリ即チ朝鮮人カレキサンドロウウツチ金ノ  
証言支那人而モ張領事カマガニ於テ臨時居留民警察事  
務ヲ取扱ハシメアル孫亭雲ノ証明書及艦内備付諸帳簿  
中薪炭出納簿(利捷利綏二艦ノモノ)ニ二月ヨリ三月ニ  
至ル四箇月間薪炭ノ出納極メテ少量ナル等ハ當時兵員  
ノ多数カ陸上ニ在リシコトヲ立証シ得テ殆ト疑ヲ容ルルノ  
餘地ナシ陳江亨艦長ハ何故斯ク虚構ノ言ヲ弄シタルヤ蓋  
シ陸上ノ戰闘参加並水上ニ於ケル機砲射撃ノ事實ヲ掩  
ハレカ為ノ用意ニ外ナラサルヘシ

二日赤西軍戰闘中支那砲艦兵員ノ多数カ陸上ニ在リテ艦  
内ニハ軍ニ監視者タル少数ノ兵員アリシノミナリトシ且僉議  
録ニ示スカ如ク陳艦長ハ赤軍尼港ニ逼リレトキ同軍トノ間  
ニ警戒上軍艦ノ周圍一定限界内ニ近接スルモノハ射撃スト

ノ協定ヲ為シテ相互ニ新聞及軍隊ニ公示及命令ヲ下シ  
赤軍入市後モ之ヲ改メサリシトセハ日赤西軍戰闘勃發  
シ人心恟々タル際何者カ該艦附近ニ近接スレハ恐怖ノ  
念ニ驅ラレシテ射撃ヲ加フルカ如キハ有り勝チノ事ニシテ支  
那人ノ國民性ヲ以テシテ殊ニ然リ而シテ之カ回撃者タル証  
言人中老人「ゴロブ」ノ陳述ハ頗ル信用スルニ足ルモノナリ又  
別ニ本人ノ切ナル願アルニヨリ敢テ其氏名ヲ示シテ貴方ニ紹  
介セサルモ土肥原少佐「マカ」滯留中最モ僥スヘキ一支那人  
ハ利綏艦長「ボイ」ノ實談ナリトシテ三月十二日未明陸  
上ニ卒然猛烈ナル銃聲起リ暫時ニシテ何者カ軍艦ニ近  
接シ来ルモノアリ依テ艦内ノ監視兵ハ機砲ヲ甲板ニ持出し  
之ニ猛射ヲ加ヘタリ間モナク天明ト共ニ日本兵三名ノ死屍  
氷上ニ横ハルヲ發見シ急遽氷ニ穴ヲ穿チ之ヲ隠匿シタ

ルヲ語レリ又某有ナル米人江亨艦長ヨリ略々同様ナ  
ル語アリレヲ語レリ(「ガイヤ」ノ証言ハ其効果ヲシテ大ナラシ  
ムル為特ニ之ヲ公然被等ニ示サリキ)是等ヲ綜合スルニ砲  
艦機砲射撃ハ右ノ如キ形式ニ於テ實施セラレタルモノナルヲ  
信セサルヲ得ス

三、陳艦長ハ三門ノ大砲ヲ白衛軍ニ貸與シ其内一門ハ日軍カ  
赤軍ニ奪取セラレタリト言明シタルモ當時ノ戦況ハ砲ヲ奪  
取セラルルカ如キ接戦ヲ交ヘテ是レ怪ムヘキノ一也若シ該  
砲カ赤軍ニ奪取セラレタリトセハ其後陳艦長ヨリ中央ニ對  
シ當然何等カノ報告無カルヘカラス(戦後陳艦長ハ數回赤  
軍ノ手ヲ經テ哈爾濱ニ打電シタリ)然レニ陳委員長カ石坂  
少將トノ會談ノ際毫モ此事ニ談及セサリシハ報告ナキヲ立  
証スルモノナリ是レ怪ムヘキニ也又従来ノ証言者中陳艦長カ

23

白軍ニ貸與セル砲數ヲ二門稀ニ三門云ハルモノナルモ三門ナリト  
言フハ陳艦長ヲ除キ他ニ一人モナキハ怪ムヘキニ也更ニ軍艦備  
付帳簿調査ニ於テ利川兵番出納簿中斯カル大事件カ軍  
ニ欄外ニ記入セラレタルハ俄ニ改メタル形跡ト認ムヘキ  
ノ四也以上怪ムヘキ諸件ヲ綜合シテ之ヲ推論スレバ陳艦長  
カ赤軍ノ要望ニ依リ利川ニ入りシ五連裝砲一門ヲ十二日夜  
貸與セリトノ証言ハ當然之ニ信ヲ措カサルヘカラス但シ陳艦  
長カ赤軍ヨリ脅迫セラレシ已ムナク之ヲ敢テシタルカ將又同  
夜利川監視兵ノ少數ナルニ乘シ赤軍力之ヲ脅シテ奪取  
セルカハ未定ナリ

四、日赤西軍戦闘中陸上ニ在リシ支那水兵カ三々伍々街路ヲ  
徘徊シ時ニ退却中ナル日本兵ニ射撃ヲ加ヘ或ハ五連裝砲  
ノ陣地ニ到リ之カ操法ヲ指導ヲ為シカリシ目撃者數カラ

サルハ前日未紹介セル所ナリ陳艦長ハ一該回擊者ノ多ク  
カヨルチザレノ殘黨ニシテ其命ヲ救ハシカ為ニ日本軍  
阿諛スル手段トシテ吐ケル妄語ナリトシ或ハ証人ノ言語カ前  
後撞著セル点等ヲ擧ケテ之ヲ否認スルハ斯カル事實カ各  
種各様ノ場合ニ於テ回擊セル所ヲ人為的ニ到底捏造シ得  
ルモノニアラス又一般支那兵ノ性情トシテ斯カル場合ニ於テ從來  
何等怨恨の關係ナキモ附和雷同の行動ヨリシテ意外ノ事  
件ヲ發生スル傾向アリ軍ニ最近東三省ノミニ於テサヘ其例三  
四ニ止マラス是等ノ關係ヨリスルモ本件ノ如キ事實カ當時市  
中ニ實現セラレシコトハ確實ナリト信セラル

四、張領事カ當時赤軍ニ對シ專ラ好意の行為ヲ為シタル事  
ハ本人絶對之ヲ否認スト雖會議録ニ依ルモ其陳述各  
所ニ撞著ノ點多シ是レ事實ヲ語ラサル欵証ナリ

唯同領事カ積極的ニ赤軍ト連絡セシトセシ証言ハ憑據確  
實ナラスルモ公會ニ出席シ演説セル事夜會乃至晚餐會  
ニ出席シテ相互交歓セルコト赤軍ニ物資供給ニ努力セル  
事等ハ之ヲ確信スルニ足ル但シ四月末未我救援軍運動  
開始セシ以來同領事ノ行為ハ日本人及他外人ニ盡力セルハ  
事實ナルヘク要スルニ同領事カ其居留民保護ノ為赤軍  
ト交通セルハ答メサルモ當初個人的ニ彼等ニ迎合スル如キ  
行為アリシハ遺憾ナリ

以上ノ我主張ニ對シ委員沈鴻烈ハ翌十七日朝次ノ如キ對  
案ヲ提出シ我承認ヲ求メ来シリ

共同判決第一第二項ニ関シテハ概要異議ナレ第三火砲貸  
與尚題ハ理論上貴見ハ一應道理アルモ當時ノ戰況ハ爾  
ク接近シカラストスルモ五連裝砲ノ如キ輕易ナルモ必スモ

第一線に近ク突進セサリトモ謂フヘカラス後ヲ奪取セラハル  
ノ機念ナシトモ断シ難キ点アリ、中央ニ報告セサリシ件ハ事  
實ナルモ是レ支那海軍進歩ノ程度淺キ今日幼穉ナル幹  
部トシテ往々免レサル所ナリ、慢薄検査ニ於ケル利川出納簿  
欄外記入ノ件ハ怪ムヘキ無キニ非サルモ不規律ナル船艦ニ  
於テハ斯カル放縱ナル行為有リ勝チハ事ニシテ若シ故意ニ  
書キ改ムルトスルモ該張簿ハ約一時間ニテ事足ル如キ軍  
簡ナルモノナレハ是ニ由テ之ヲ断スルハ早計ナリ一面陳艦  
ハ本件ヲ絶對否認シ之ヲ曲ケタルニ於テハ自殺ニテ共  
寛ヲ雪カント違痛言シカリ殊ニ本件ノ如キ重大ナル事件  
ニ関シテハ人言以外何等確ル鉄証ナキヲ以テ到底之ヲ  
承認シ難シ

第四支那水兵カ陸上ニ在リ當時市街ヲ散歩シカリシハ

之ヲ認ムルモ射撃及砲ノ操法指導ノ件ハ証言者ノ上ニ  
各所ニ一致セサル箇所多ク又福建人ハ性爭鬪ヲ好マン  
關係ヨリスルモ速カニ之ヲ承認シ難シ  
爾後三回ノ會見ニ於テ我ハ砲貸與問題ニ付キ再應彼ノ  
反省ヲ求メタルモ彼ハ前説ヲ主張シテ枉ケサリレカ陸上水兵  
射撃ノ件及砲操法指導ノ件ハ故意ニ之ヲ行ヒタリトハ  
信シ難キモ何然ルノ個人的誤解ト赤軍ノ脅迫ニヨリテ發生  
シタルヤモ知レズ之ヲ承認スルモ可ナリトノ意ヲ洩シタルニヨリ  
我ハ砲貸與問題ハ一應支那側主張ヲ容レ之ヲ讓歩スヘキ  
モ兎ニ角陳艦長カ赤軍ニ一兩ノ砲ヲ奪取セラレタルヲ知り  
ナカラ何等之ヲ取り返スヘキ手續ヲ講セス為ニ赤軍ノ利用  
スル所トナリシコトハ断シテ之ヲ責メサルヘカラスト主張シ二三  
押シ尚答ノ末支那側ニ於テ之ヲ承認シ爾後二三字句ノ

修 正  
正 月 日  
先 日  
後 現  
判 決  
文 以  
以 予  
共 同  
判 決  
小 為  
ス 二  
議 決  
修 正  
正 月 日  
先 日  
後 現  
判 決  
文 以  
以 予  
共 同  
判 決  
小 為  
ス 二  
議 決  
修 正  
正 月 日  
先 日  
後 現  
判 決  
文 以  
以 予  
共 同  
判 決  
小 為  
ス 二  
議 決

26

5-1457

0035

共同調査委員打合會議録

第一回(八月十七日)

出席者

花岡書記官  
土肥原少佐  
澤本參謀  
鈴木參謀

決議事項左、如シ

一 委員及補佐官、業務分担

(1) 交渉

委員

(2) 支那語通譯

宮越教授

會議場ニ出場ス

(3) 會議録調製

鈴木大尉

(4) 交渉資料、蒐集  
及整備

主任 竹本少佐  
池田教授

補助

武田通譯  
鈴木通譯  
造兵技術將校(海軍)

(5) 支那委員接待

主任 陸軍將校  
補助 池田通譯  
武田通譯

雑役 陸軍兵卒若干

二 砲艦下航後「マガ」ニ於ケル掃海準備

三 談判地 尼港トス

四 支那砲艦 尼港ニ於テ三日事件當時、位置ヲ取ラシム

五 交渉方針、一部

最初支那側ノ説明ヲ求ムルモ之ニ應セサルトキハ曾テ花岡書記官  
支那領事トノ間ニ行ハレタル會見談ヲ以テ交渉ノ基  
礎トシ直チニ質問ニ移ル

未決事項

一 交渉方針の一部

交渉の順序ヲ射撃問題ヲ先キニスヘキヤ將タ亦領事態度  
其、他中立問題等ヲ先キニスヘキヤ

第二回（八月十八日）

決議事項

（出席者前回ニ同シ）

一 發言ノ方法及順序

イ 大体、挨拶

ロ 事件顛末ノ聴取

ハ 一般交渉經過指導

ニ 諸事裁決

ハ 陸上方面關係事項

首席委員

陸軍委員

海上方面關係事項

海軍委員

如ク其、大体ヲ決定スルト雖モ日々計畫ニ基キ更ニ細部ノ關  
係ヲ其、都度規定スルモノトス

二 交渉方針の一部

交渉順序ハ大体左ノ如ク豫定ス

イ 領事ト赤軍トノ關係

ロ 支那砲貸與ノ件

ハ 領事カ赤軍ト共ニ自由貿易ヲ禁止セルコト

ニ 金塊問題

ホ 支那官憲カ支那人ノバルチザン加担ヲ防止セザリシ件

ヘ 支那砲艦ノ射撃

三 交渉ノ對照者

支那委員トスルコト



四 四月上旬、ニーナ、演説ニ對スル支那領事ノ反説ハ要スルニ支那カ  
一定ノ方針ナキコト殊ニ最後日本軍ニ好意ヲ有セルニ至レル件ニ  
就テハ日本軍ノ出兵ニ依ル恐怖ノ結果ト判定説破スルコト

第三回(八月十九日)

決議事項

(出席者前回ニ同シ)

一 交渉要領一部

最初ニ支那ヲシテ當時一般狀況及事態ヲ説明セシムル代リニ曾テ  
花岡及土肥原両氏カ支那領事並江亨艦長ヨリ聴取セル談話ノ概  
要ヲ記録提出シ之ヨリ直ニ質問ニ入ル

右談話ノ記録別紙

二 討論要領一部

討論ニ際シテハ花岡氏ニ對スル領事ノ公文書並之カ附属書類ヲ

基礎トシ之ニ各種ノ證據資料ヲ彼此配合シ之ヲ行フコト

第四回(八月二十日)

決議事項

(出席者前回ニ同シ)

一 共同調査ノ結果ニ基ク委員ノ處置ニ関シ豫メ中央部ノ指示ヲ受  
フル目的ニテ中央部ニ對シ花岡氏ヨリ打電ス

二 交渉要領一部

領事及艦長談話ノ概要ニ對スル質問事項ヲ別紙(別紙計畫書  
ニ添付ス)ノ如クス

以上ノ決議ノ後露人ボロラント人等證言人ノ再調査ヲ行フ

第五回(八月三十一日)

出席者前回ノモノ及  
多門大佐、竹本少佐

一、現地ニ就キ左ノ件ヲ再調査ス

一、憲兵隊附近戦闘状況

二、領事館戦闘ノ際南方面ニ赤軍ナキコト

三、エゴールス、支那水兵参加目撃者状況

四、四十七粒弾痕ヨリスル談砲ノ位置

五、クンスト倉庫ヨリ目撃者ノ状況

二、支那領事ヨリ提議セル六月上旬ニ於ケル日本軍ノ支那人射殺ノ件ハ共同調査ニ関係ナキモノトシテ之ヲ葬リ去ルモノトス

第六回(八月二十二日)

(出席者前回ニ同シ)

### 決議事項

一、第四回決議ニヨル請訓ニ對シ中央部ヨリ何等ノ訓令ナキ場合ニ於

テハ當委員ニ於テハ單ニ事實ヲ調査スルノミトシテ之ヨリ生スル處置ニ就テハ強制ニ陥ラサル程度ニ於テ將來交渉ノ一部ヲ行フコトアル

二、金塊問題ニ就テハ支那砲艦内搜索ヲ行フコトナク證據ニヨリ之ヲ断定ス若シ彼ヨリ搜索ヲ求メ來ル場合ニ於テハ其ノ容易ナラサル理由ヲ以テ拒否ス強テ要求スル場合ニハ砲艦ノ破壊ヲモ行フヘキコトヲ要求ス

第七回(八月二十三日)

出席者前回ニ同シ

### 決議事項

一、六月二、三日頃我軍カ又那良民ヲ射撃セリトシ支那領事ノ來信ニ對シ若シ此事アリトセハ之レ過激激若クハ之ト行動ヲ共ニシタリ

トノ理由ニ依リ單簡ニ應答スルコトセリ  
又本件ハ委員トハ無關係ニ取扱フヘキモノナリ  
一 証言人ノ再調査ヲ行フ  
二 支那カ初メヨリ我調査方針ニ従ハサル場合ニ於テハ已ム得サレハ我  
資料ノ一部ヲ提示シ之ニ對スル反駁ヲナサシメ之ヨリシテ我質問ニ入  
リ以テ我方針ニ合致スル如ク轉換時機ヲ捕フルコト

第八回(八月二十四日)

出席者前回ニ同シ

### 打合せ事項

一 六月二三日頃ニ於ケル支那人射殺問題ニ就テ多門大佐安ホニ基キ協  
議ノ結果大体ニ於テ本案ヨリ返答ヲナス  
二 証言人再調査ヲ行フ

第九回(八月二十五日)

出席者前回ニ同シ

### 打合せ事項

一 証言人ノ再調査及新ニ得タル証言人ヨリ日本遊廓附近ノ戦闘ニ  
又那水兵ノ参加セル件ニ就キ現地視察ヲ行フ  
二 實業學校ニアル英國製砲架ノ点檢ヲ行フ

第十回(八月二十六日)

出席者前回ニ同シ

### 証據資料利用ノ順序

(A) 花岡宗

資料ノ確實性ノ比較的大ニシテ而カモ事件ノ重大ナルモノヲ第

一 提供シ彼ニ對シ初回ノ討論ニ於テ大打撃ヲ與フルヲ以テ方  
針トス

(B) 土肥原案 澤本案

資料ノ確實性比較的大ニシテ而カモ支那側認義ノ公算アル  
モノヲ呈出シ支那側ヲシテ我資料ノ權威アルコトヲ自覺セシ  
メ且ツハ討論ノ進捗ヲ速カラシムルヲ以テ方針トナス  
右本案ニ就テ意見ヲ交換シタルモ何等決定ヲ見ルニ至ラス

第十一回 (八月二十七日)

出席者 前回ニ全シ

打合せ事項

一 「ケルビ」方面ヨリ逃シ來リタル露入ヲ調査シ陸上支那水兵ノ戰  
闘参加ヲ知ルヲ得タリ

二 「マカ」避難支那人ノ汽船ニテ哈府ニ行クモノニ就キ徹底的調査ヲ  
行フニ決ス 陸軍通訳三名ヲ派遣ス

第十二回 (八月二十八日)

出席者 前回ニ同シ

打合せ事項

一 証據資料呈出順序ヲ別紙ノ如ク豫定スルコトニ決定ス  
二 調査地變更ヲ必要トスル場合ニ於テ日本委員ハ小樽ヲ主張スル  
コトヲ決定シ之ヲ外務省ニ打電ス又陸軍委員ハ次官次長ヲ詳  
細ナル意見ヲ呈出ス(別紙)

第十三回 (八月三十日)

出席者 前回ニ全シ  
内 田大佐

- 打合せ事項
- 一 証言人ノ再調査ヲ行フ
  - 二 花岡君ヨリ内田大佐ニ對スル説明アリ

第十四回(九月一日)

出席者前回ニ同シ

- 一 證言人調査
- 二 民事部備入ノ露婦人ノ内、マルーシヤナルモノ孫亭雲ノ妻タルト、事ニテ間諜ノ嫌疑ヲ以テ家宅搜索及身体検査ヲ行フ
  - 三 支那委員三日浦潮癸五日當地着ノ電報ニ接ス

第十五回(九月二日)

出席者前回ニ同シ

- 一 支那委員浦潮癸ノ電報ニ接シタルヲ以テ兼テノ計畫ニ基キ支那領事ニ對シ砲艦ノ尾港ニ回航スヘキヲ至當トスルノ意思ヲ手紙ヲ以テ通達ス

第十六回(九月三日)

出席者前回ニ同シ

- 打合せ事項
- 一 會場出席者人負ノ決定
    - 委員 記録係 譯官 委員補佐 計
    - 五 二 三 一 十一名
  - 二 支那委員到着當日ノ行フべき事項ヲ決定(案別紙)

第十七回(九月四日)

出席者前回ニ同シ

打合セ事項

- 一 証言人再調査ヲ行フ
- 二 最後ノ場合ニ於テ支那砲艦ノ處分ニ就テハ更ニ請訓スル事
- 三 會議場ニ出場スヘキ人名ヲ左ノ如ク決定ス
  - 一 委員 五
  - 二 記録掛 鈴木大尉 武田譯官
  - 三 通譯 官越譯官 鈴木譯官 穂積譯官
  - 四 詳報主任 竹本少佐

第十八回(九月五日)

出席者前回ニ同シ

一 明六日支那委員到着時ニ於ケル事項ニ就テ協定左ノ如ク決定ス

出迎 土肥原少佐

澤本大尉

池田譯官

須藤中尉

(棧橋ニ於テ)

大正九年九月卅日 接獲

警務局 1 第 1 課

第 12400 號

高 秘 收 第 七 五 八 九 號

大 正 九 年 九 月 二 十 七 日

北 海 道 廳 長 官 笠 井 信 一

要旨付了

内務大臣 床次竹三郎 殿  
 外務大臣 伯耆内田康哉 殿  
 陸軍大臣 男爵 田中義一 殿  
 海軍大臣 男爵 加藤友三郎 殿  
 警視總監 西 喜七郎 殿  
 山口、青森各縣知事 殿

去日消息

支那武官退道ノ件申(通)報

在尾港支那軍大慰問員

支那海軍少將

劉 華 式

王 寿 庭

黃 緒 虞

(寛批奥)

右者等(警視十九日午三時外秘申)本月二十二日午後一時五分函館  
 入港ノ連絡船ヲ道内遊覧ノ為ト称シ末道シ今日午後十時三  
 十分小樽港ニ来着シ北海屋ホテルノ投宿シ尾港行船待滞  
 在中ノ処俄ニ全地行ヲ變更シ二十五日午前七時三十分函館發  
 連絡船ニ乘東京ノ向ト出發候條及申(通)報候條也  
 追而本道滞在中容疑ノ莫無之候条申添候也

電信課長

大臣

次官

浦内署  
大正九年十月廿一日  
午後五時八分

内閣外務大臣

樺山資紀部長

政務

通商

第三九〇號

條約

杉野三九ノ通

情報

外務大臣ノ電

人事

第五八號

會計

九月二十日支那砲艦四隻在港より着陸事件

文書

同日調査部長陳及外務部員王其他一行等之

條約實施

二便乗し来り十月一日支那砲艦四隻在港より着陸事件

何 早

砲艦十月一日支那砲艦四隻在港より着陸事件  
如何の通り三隻附近三又江に於て各艦より水雷  
雷を砲艦ト共ニ投下し其の他二隻は汽船  
七隻に引合はれ自航を失  
略年官廳、世系、電報線



電信課長

大臣

次官

政務

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

複写済

陸軍省副官 津野中將

陸軍省副官 津野中將

花園書記官より外務大臣へ

第八六號

貴電第七七號ニ関シ

頂戴シ恐縮ニ地急ニ陸海軍側

委員ニ傳達セリ又御訓電ニ從ヒ

本福次通譯生ニ當テ於テ出乘ル

丈ケ冬越ノ準備ヲナシ樺太ニ出候

大正十二年五月廿日 記録第二部接受

セシムル其他の十月十一日頃本官上相  
前後ニ尾捲ヲ出候帰朝スベシ(二十八日)

複寫

電受第一四五七一號 暗

尼港軍用局發 大正九年 九月廿九日 后一、〇〇  
本省 着 十月 四日 前七、〇四

陸軍省副官

津野少將

花岡書記官ヨリ外務大臣へ

第八六號

貴電第七七號ニ關シ 態々電報ヲ頂戴シ恐縮ニ堪エズ直ニ陸海軍側委  
員ニモ傳達セリ又御訓電ニ從ヒ鈴木福次通譯生ハ當地ニ於テ出來ル丈  
ケ冬越ノ準備ヲナシ樺太ニ出發セシムベク其他ハ十月十一日頃本官ト  
相前後シ尼港ヲ出發歸朝スベシ(二十八日)

外務省

(已號用紙)

5-1457

0047

附屬書類添附

大正九年拾 四日接獲 雙致爲 第一第課

特機密第七號

大正九年九月廿五日

文那砲艦問題共同調査委員

大使館一等書記官花岡止郎 謹

外務大臣伯爵内田康哉殿

會議情報送附ノ件

一 往電特第一〇號第八回會議概報

英日通商

號受12564第

外務省

5-1457

0048

宛外務大臣

發花岡書記官

特第一〇號

九月十四日 第八回會議概報

- 一、射撃問題ニ関スル証人八名ノ調査ハ何事曲折ナク正午迄ニ終了ス
- 二、三月事變當時ニ於ケル砲艦附近ノ警戒ニ関シ陳艦長ハ言ヲ左右ニ托シテ明答セサルヲ以テ我委貞之ヲ追窮セル所支那委貞ハ陳艦長ヲ援護シ議場頓ニ活氣ヲ呈ス
- 三、午後記録整理ノ為メ休會ス
- 四、昨夕王鴻年ハ司令部ニ於テ我陸海軍委貞ト夕食ヲ共ニシタルヲ以テ談笑ノ間事件ハ成ルヘク小範圍ニ止メテ解決シタキ我意圖ヲ洩シタルニ彼モ大ニ同意ヲ表シ安心セル模様ナリ

(終)

電信課長

下

大臣

次官 陸

2069  
(晴)

陸軍省 陸軍省副官  
陸軍省副官 津那少将  
大正九年 九月廿六日 三〇  
十月廿七日 一五

政務

通商

甘肅省地方官より外務省官

第八七号

條約

情報

人事

會計

要目付了

文書

條約實施

本官ハ九月二十日支那委員及流程之便乘、アムール河  
湖流之「アムール」河全派矣、「アムール」河全派地ニ支  
那委員下付シ「アムール」河口地方ヲ視察シ昨ニ七日尾  
港ニ帰還セリ其ハ蘇州ノ通リ  
一) 支那委員一行ハ比較的満足ニ存シ今同解決ハ

日軍側、好意の態度に依り見たり、如く領事支  
那人間ニ非難セシ流カ係属を元全塊約十布成ノ  
輸送ニ付大軍艦備ハ斯カルノ間信スルノ欲キト  
拒絶シ汽船「イース」側ニ過激派ノ誘致撃ニ對シ  
委員トリ之ヲ好ム「アムール」出帆、陸軍省ニ直ニ  
議リ陳述及至酒年ノ件裁ニ依リ然角「イース」  
年ニ積リ陸軍省ニ向テあり

陳述ハ本委員初ニ江京艦長陳氏ハ帰國ノ旨  
農ノ為休職ヲ命ヘシ「アムール」出帆、陸軍省ニ  
直ニ免職トスルニ

又砲艦の威を以て支那領内之遊航を禁せしむるに砲艦中遊航不能多し其武裝之解除は遊漁派利用せしむるに語あり

(二) 遊漁派の「ケル」は連行せしむるに中約三千五百の先敢勇敵ナル林大尉行動之依り故に其府着の浦河之遊し令敢來者「アケル」河下流視察隊別隊者ナリ「ケル」河上流「ケル」方面ハ中約二千名民アリ目下水漲多し「ケル」不便ナリ遊漁派は是を脱出せ得ず「ケル」如し當地「ケル」先林大尉「ケル」遊漁派隊長「ケル」

帰還せしむる民を送出せしむるに因隊隊長「ケル」此「ケル」向「ケル」思「ケル」殘存民「ケル」河岸「ケル」日本軍隊は既撤退「ケル」以「ケル」守備隊長ト共「ケル」ツイル村長「ケル」令「ケル」民「ケル」帰還「ケル」向「ケル」向「ケル」外「ケル」

(三) 又陸軍側「ケル」我々領地城ト警戒せしむるに港市及上流「ケル」地方「ケル」遊漁派は其期「ケル」糧食「ケル」配「ケル」危険人物「ケル」取上「ケル」民「ケル」現在「ケル」向「ケル」

建徳の海防と素より之の豫言と雖も

(九月二十日)

(終)

5-1457

0052

要件

文書課長

大正九年十月五日 接

大正九年十月五日 接

大臣

大正九年十月五日 附

大正九年十月五日 附

送第 〇〇 號

主任

大官

要旨

主管

政務局長

内田大臣

田中陸軍大臣

土肥原 / 少佐 出張

関る件

外務省

急

軍務局長

尾港に於ける支那砲艦事件に關る日支  
 共同調査の結果に其中心人物に於ては  
 使ヲレテ支那政府ト談判ヲ開始セラルト  
 上 吉本 候 奉 有 謀 刺 殺 案 共 同  
 調査に從事し目下帰朝中ノ土肥原(賢三)  
 少佐(半平)使 補佐(三郎)に於ては甚夕  
 好都合ト被存候に付少異存等之に於て  
 ハ今少佐ヲ外務省へ囑託し復約一箇



各省別召ノ北京  
月豫定トモ業那ノ出張及在候間在  
討及貴者ノ中意向少回系在申度候  
申進候也

(土昭兵少佐ノ候ニ係リハ  
其旨同業同書外  
至其先考ノ付口語説明  
ツカカレハ明カトナリ  
等々)

外 藩 省

(陸軍兵少佐土肥系賢二)

秘急

陸海軍大臣

大臣

通官

次官

佐賀

林

茶

陸海軍大臣

下

十月廿陸軍大臣  
七日海軍大臣

陸海軍大臣

陸海軍大臣

内田

佐賀

要

第五七〇号

陸海軍大臣  
第五七〇号

陸海軍大臣  
第五七〇号

外務省

電送 八七四四號  
九月十七日 五時 分發

5-1457

0055

夕 影 省

存軍ノ一部、對シ械闘銃ノ射撃ヲカ、兵三名  
 死シ至リシトタルコト、去那例番兵ノ正式ニ肯認ス  
 ル所トナリ即チ同裏ニ番兵政府力去那政府ニ對シ指  
 撥シ名去那砲艇日本人射撃手ノ手帳ニ名入  
 立何カ、ニ至リタル迄ナラズ以テ、番兵政府ハ大  
 伴<sup>本件</sup>結成<sup>案</sup>ヲ二三名ノ方針、依リ若事<sup>本件</sup>表<sup>案</sup>ノ解  
 決ヲ圖ルト全始、三月中旬日英海軍隊間<sup>一隊</sup>支  
 那水兵力<sup>内</sup>中細中<sup>内</sup>譯<sup>内</sup>日英兵<sup>内</sup>射<sup>内</sup>野<sup>内</sup>ニシテ

形跡を以て予言、對しては予部既知の如く陳  
 封せしむるに、<sup>後尚ホ</sup>未だ予部併ヨリ心なすに武  
 器ヲ供給しえ、予言ハ明確ニ其証をえ、<sup>一</sup>至  
 ちヤリニス <sup>二</sup>予部既知艦匠等、艦長ノ自軍ニ使  
 出せしむる三門ノ大砲中一門ヲ新軍ノ利用ス、所ト  
 ナリ、形跡アリ <sup>三</sup>三月中旬、新軍既關中  
 予部水兵ノ或者カ新軍ニ砲ノ操縦ヲ教授せし  
 形跡、予部間橋ニ、新軍幫助ノ行方アリ、タリト

外務省

推定之均(可)下  
 事(連)表(長)漢(事)部(別)修(事)取  
 文(大)條(新)年(對)表(方)權(快)と(し)集(事)業(事)也  
 川(新)  
 事(身)シ(ク)事(部)修(事)於(予)自(予)肯(認)ス(ル)所(ナ)ル(コ)ト(シ)テ  
 是(身)ノ(予)修(事)對(シ)テ(ハ)事(部)修(事)ヤ(シ)テ(過)博(ノ)  
 爲(リ)表(セ)シ(ル)コ(ト)ナ(シ)後(可)シ(ク)自(予)昔(故)ニ(ハ)事(部)修(事)  
 修(事)對(シ)別(修)事(方)五(七)一(号)ノ(修)事(ヲ)申(入)レ(ル)事  
 方(リ)シ(テ)漢(ノ)修(事)セ(シ)ル(事)氣(ヲ)修(事)力(ヲ)アリ(タ)シ(ル)事  
 修(事)ノ(於)テ(ハ)修(事)ノ(共同)調査(ニ)際(シ)テ(ハ)事(部)修(事)

1945年  
10月  
20日

員、於テ終始公道ノ態度ヲ持シテ條件ノ	円満解決ヲ望ムノ诚意ヲ示シタルヲ諒トシ	且此種ノ不快ナル条件ヲ可成速ニ終結セシメ	テ希望ナルヲ以テ別電 第五七二號ノ要求ヲ極メテ	寛容ノ精神ヲ基ク我々方最少限ノ条件ナル	次方ヲ先方ニ認めセウシ、然レ亦ニ東洋ノ成務ヲ由	リテ別電ノ条件 第三項ニ對シ 程度ニ付テハ我	々讓歩見ルニ至ラズ又第四項ノ金額ハ倍々見リ
--------------------	---------------------	----------------------	-------------------------	---------------------	-------------------------	------------------------	-----------------------

5-1457

0059

千島拂ハシムルニ付 困難ナク 協定ニ付 慰金ヲ 支拂  
 又才四項帛魁ノ方法ニ関シテハ 可成ク 帛魁金ヲ  
 支拂ハシムルニ付トシ 度ク其金額ハ被害  
 者ノ範圍ヲ特定スルニ付 不可能ナルニ依リ 尼  
 塔殉難者約七百名ニ對シ 一人當五十圓ノ  
 見當ニテ 合計三萬五千圓位ニ交渉セラレ  
 度ク 若シ右帛魁金案ニ折合フニ付 困



難ナル場合ニハ支那政府ノ名ニ於テ遺族  
ニ対シテ弔慰状(全体ニ宛テ一通)ヲ送ラレケル  
コトニ讓歩スルモ差支ナキ考ナルニ依リ其ノ合  
ニテ可然處理セラレ度ニ尚ホ共同判決文若  
クハ其要領ハ別電ヲ一項ノ公文公表ト同時  
ニ又ハ其前通者ノ時機ニ発表スル様ナリ  
彼我打合ヲ遂クル積ナリ

事務官



新

大臣

次官

電信局

政務局長

内田 吉生

小幡 以俊

要旨付了

第五七一号別表

帝國政府ハ獨ニ片邊ニ於ケル支那砲艦砲

撃ヲ予件ニ付最モ慎重ニ以テル事候ニ依リ

電送第八七四五號  
九年十月七日 時六時五分

外務省

其解決ノ圖ヲ示シテ希望シ 貴国政府ニ提  
 儀スルニ日支共同調査ノ事ヲ以テシタル事業  
 貴国ノ快諾ヲ得 爾來 爾等貴国當局  
 現地ニ於テ 嚴密ニ調査シ 遂ケル 結果過  
 日共同判決ノ個印ヲ見ルニ至リ 右判決文  
 ヲ査スルニ 總ニ 貴国政府カ 貴国政府ニ對  
 シ 指摘シタル事案ハ 明カニ 立証セザレタル事  
 以テ 貴国政府ハ 日支親善ノ關係ニ 鑑ミ 速

2 的ノ如キ遺憾ニ出未予ノ因満ル解決ニ  
 達セントコトヲ欲シ茲ニ大ノ條件ヲ提出スル決  
 意ナルニ依リ貴国政府ニ於テ元以正ノ態度  
 ヲ示シ之ヲ應答セラルニ至ランコトヲ希望ス  
 第一 支那政府ハ帝王政府ニ對シ公文ソ以テ  
 共同<sup>判決</sup>~~調停~~第二項ノ出来ヲ、對シ陳謝シ又第一  
 項<sup>後段</sup>第三項及第四項ノ出来ニ對シ遺憾ノ  
 意ヲ表シ且同時ニ右公文ソ以テ表スルコト

外務省

死刑は極刑  
刑下は極刑  
是れは極刑  
云々

第六、支那砲艦江亨ノ所属(艦隊)司長及ハ尾尾守 備隊所属帝國軍司令官及ノ顧問ニシテ其同判 決事ヲ干渉スル者其ノ罪ニ對シテ極刑ニシテ 第三、支那政府ハ其ノ砲艦江亨ノ事關ニ對シテ 對等ノ關係ニシテ監視兵員及中ノ者長ヲ禁 止官ヲ死刑ニ極刑ニシテ然レ又同艦ノ長 ハ指揮監督ノ任責任ノ有ルノ事トシテ右射 撃手ノ子魚ヲ極力隠蔽セトシテ其ノ罪跡
--

十月廿四日  
 西軍上校  
 儀ノ儀軍  
 下記ノ通  
 修正ス

<p>下市書一様          未事最事          下市書一様          未事最事          下市書一様          未事最事</p>	<p>ル          下市書一様          未事最事</p>	<p>下市書一様          未事最事</p>	<p>下市書一様          未事最事</p>	<p>下市書一様          未事最事</p>	<p>下市書一様          未事最事</p>
--	---	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

5-1457

0066

在支

小幡公使

内田大臣

修好ノ協定

第五七〇號

往電第五三七號ニ關シ日支共同調査ノ結果尼港事件ノ際支那砲艦監視兵  
カ日本軍ノ一部ニ對シ機關銃ノ射撃ヲ加ヘ兵三名ヲ死ニ至ラシメタルコ  
トハ支那側委員ノ正式ニ肯認スル所トナリ即チ曩ニ帝國政府カ支那政府

外務省

ニ對シ指摘シタル支那砲艦日本人射撃ノ事實ハ茲ニ立證セラルルニ至リ  
タル次第ナルヲ以テ帝國政府ハ大體往電第二〇三號ノ方針ニ依リ本件ノ  
解決ヲ圖ルル同時ニ三月中旬日赤兩軍戦闘ノ際支那水兵カ市内徘徊中日  
本兵ヲ射撃シタル形跡アルノ事實ニ對シテモ支那政府ヲシテ陳謝セシム  
ルコトトシ度ク尙ホ支那側ヨリ「バルチザン」ニ武器ヲ供給シタルノ事  
實ハ明確ニ立證セラルルニ至ラサリシモ(一)支那砲艦江亨艦長ノ軍ニ貸  
與シタル三門ノ火炮中一門カ赤軍ノ利用スル所トナリタル形跡アリ(二)三  
月中旬日赤兩軍戦闘中支那兵ノ或者カ赤軍ニ砲ノ操縦ヲ教授シタル形跡  
アル等間接ニ赤軍補助ノ行爲アリタリト推定シ得ヘキコトハ亦等シク支  
那側ニ於テ目ヲ肯認スル所ナルヲ以テ是等ノ事實ニ對シテハ支那政府ヲ  
シテ遺憾ノ意ヲ表セシムルコトトナシ度キニ付貴官ハ支那政府ニ對シ別

外務省

電第 號ノ趣旨ヲ申入レ先方ヲシテ速ニ應諾セシムル様御盡力アリ  
 タシ尙ホ政府ニ於テハ今回ノ共同調査ニ際シ支那委員ニ於テ終始公正ノ  
 態度ヲ持シ事件ノ圓滿解決ヲ望ムノ誠意ヲ示シタルヲ諒トシ且此種ノ不  
 快ナル事件ヲ可成速ニ終結セシメタキ希望ナルヲ以テ別電第 號ノ  
 要求ハ極メテ寛容ノ精神ニ基ク我方最少限ノ條件ナル次第ヲ先方ニ説明  
 セラレ度ク尤キ交渉ノ成行ニ由リテハ別電ノ條件第三項處罰ノ程度ニ付  
 テハ多少讓歩スルモ差支ナク又第四項ノ金額ハ償金トシテ支拂ハシムル  
 ヲト困難ナル場合ニハ弔慰金トシテ支拂ハシムルコト、トスルモ差支ナキ  
 考ナルヲ御合審アリ度シ

グロウ、負、1/2

外務省

又第四項弔慰ノ方法ニ關シテハ可成ハ弔慰金ヲ支拂ハシムルコトトシ度  
 ク其金額ハ被害者ノ範圍ヲ特定スルコト不可能ナルニ依リ尼港<sup>ウ</sup>難者約  
 七百名ニ對シ一人當五十圓ノ見當ニテ合計三萬五千圓位ニ交渉セラレ度  
 ク若シ右弔慰金案ニ折合フコト困難ナル場合ニハ支那政府ノ名ニ於テ遺  
 族<sup>ニ</sup>對シ弔慰狀ヲ送ラシムルコトニ讓歩スルモ差支ナキ考ナルニ依  
 リ其ノ含ニテ可然處理セラレ度シ尙ホ共同判決文若クハ其要領ハ別電第  
 一項ノ公文公表ト同時ニ又ハ其前適當ノ時機ニ發表スル様追テ彼我打合  
 ヲ遂クル積ナリ

全体ニ對シ一團

外務省

5-1457

0068



在 支

小 幡 公 使

内 田 大 臣

第 九 七 一 號 別 電

帝國政府ハ嚮ニ尼港ニ於ケル支那砲艦砲擊事件ニ付最モ慎重公明ナル手段ニ依リ其解決ヲ圖ランコトヲ希望シ貴國政府ニ提議スルニ日支共同調査ノ事ヲ以テシタル處貴國ノ快諾ヲ得爾來兩國委員會商現地ニ於テ嚴密調査ヲ遂ケタル結果過日共同判決ノ調印ヲ見ルニ至レリ、右判決文ヲ査スルニ嚮ニ帝國政府カ貴國政府ニ對シ指摘シタル事實ハ明カニ立證セラ

外 務 省

レタルヲ以テ帝國政府ハ日支兩國ノ關係ニ鑑ミ速ニ斯ノ如キ遺憾ナル出來事ノ圓滿ナル解決ニ達センコトヲ欲シ茲ニ左ノ條件ヲ提議スル次第ナルニ依リ貴國政府ニ於テモ公正ノ態度ヲ以テ直ニ之ヲ應諾セラルルニ至ランコトヲ希望ス

第一 支那政府ハ帝國政府ニ對シ公文ヲ以テ共同判決第二項及第四項前段ノ出來事ニ對シ陳謝シ又第一項第三項及第四項後段ノ事實ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ且同時ニ右公文ヲ公表スルコト

第二 支那砲艦江亨ノ所屬艦隊司令官ハ尼港守備隊所屬帝國軍司令官ヲ訪問シテ前項同様陳謝シ且遺憾ノ意ヲ表スルコト

第三 支那政府ハ共同判決第二項射擊ニ關係シタル兵員及其監督士官ヲ嚴重處罰<sup>多岐</sup>又<sup>多岐</sup>砲艦長ハ指揮監督ノ全責任ヲ有スルノミナラス右射擊

外 務 省

5-1457

0069



ノ事實ヲ極力隠蔽セントシタルノ罪跡アルニ顧ミ重キニ從テ處罰スル  
コト

第四 支那政府ハ共同判決第二項ノ被害日本兵三名ニ對スル償金トシテ  
邦貨三萬圓ヲ帝國政府ニ支拂フコト

第四 支那政府ハ本事件ノ被害者遺族ニ對シ適當ナル弔慰ノ方  
法ヲ講スルコト

外務省

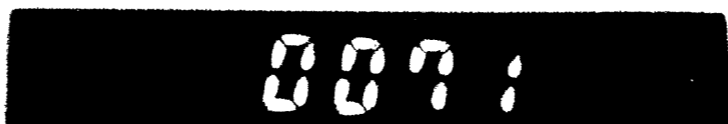
5-1457

0070

大臣  
次官

電信寮(暗)	政務局長	第二課	内田大臣	小幡公使	在支	第...部	往電才五七部ニ関シ共同調査ノ旨及事ヲ説明シ	貴官ノ対支交渉ニ次員セシムル為今般陸軍省卜
電送第 7736 號		昭和 10 年 10 月 7 日		5 時 40 分		要付了		

外務省



夕 雁 管

力協議ノ上土肥原少佐ヲ外務省囑託名議ニテ貴地

ニ出張セシムルコトナリ今官ハ判決文及會議録

ノ原抄本其他関係書類推考帶お日中ニ出張ノ旨

ニ付右抄承知アリタシ

5-1457

0072

淨書主任

再回

文書課長

大正九年十月八日 接獲

79

淨書主任

大正九年十月七日起草  
大正九年十月八日號

機密第一二六號

機密

主管  
政務局長  
[Signature]

大正九年十月八日 發送済

主任

列紳の多き事、之等

田大臣

在支  
小幡公使 宛

支那砲艦事件共同調査

関係書類送付一件

事務

急

機密

5-1457

0073

本件ニ関シ今般貴地出張、土肥原少佐	ニ概シ左記目錄、通関係書類茲ニ及送	附向所査収相成度尚所用格、節、(五)調	査概要、(六)本件ニ関聯シ陸軍省側調書及(七)	訓令單ヲ除キ全部所返却相成度此段申進也	記	(一) 共同調査会會議録原文	一	(二) 支那側會議録單	一
-------------------	-------------------	---------------------	-------------------------	---------------------	---	----------------	---	-------------	---

秘受12866第

大正九年十月九日 發

陸軍省 第二課

次官同文

十月七日

電

報

十月六日午前十一時發着  
午後四時着着

次長宛

宛

在

浦洲派遣軍參謀長

浦美五六一

哈府より哈市へ回航スル船団汽船七バルキ五ハ  
國官官憲ノ了解保証ヲ得テ十月五日午前發着  
哈府ヲ出帆ス  
支那砲艦モ亦同航セリ

警得了

陸軍

(三)	共同調査判決原文	一
(四)	證據書類及參考書類	一摺
(五)	支那砲艦射擊事件日支共同調査概要	一
(六)	本件ニ關聯シ陸軍省側調査書(見返)	一摺
(七)	對支那政府交涉方針命令	一
	以上	
	備考 (一) 厄港花園畫記及米俵特機密中九號附屬書共其供 (二) 厄港花園畫記及米俵特機密中八號附屬書共其供 (三) 厄港花園畫記及米俵特機密中七號附屬書共其供 (四) 厄港花園畫記及米俵特機密中六號附屬書共其供 (五) 厄港花園畫記及米俵特機密中五號附屬書共其供 (六) 厄港花園畫記及米俵特機密中四號附屬書共其供 (七) 厄港花園畫記及米俵特機密中三號附屬書共其供 (八) 厄港花園畫記及米俵特機密中二號附屬書共其供 (九) 厄港花園畫記及米俵特機密中一號附屬書共其供	

電送第九〇二五號  
九年十月五日 三時五分

電 信 局 印

長官 〇

印

印

印

在 外 田 大 使

小 幡 公 使 宛

要 領 付 了

第 九 八 号

土 肥 原 少 佐 本 日 十 二 回 兼 貴 地 道 行

久 十 六 日 吹 到 者 一 豫 定

小 幡 官

5-1457

0076

大正九年拾月拾八日接受

政務大臣

海軍省副官

海軍

大正九年十月十六日

野村吉三郎

花岡 外務書記官殿

陳支那海軍部副官謝電ノ件

本件ニ關シ別紙寫ノ通在支公使館附武官ヨリ電報有之候ニ付及御送付候也

別紙添

終

(報文社稿)

花岡

海軍

共同調査ノ爲尼港出張中ハ多大ナル御厚意ニ預リ感謝ノ至ニ堪ヘス  
茲ニ謹テ御禮ヲ申述フ

陳復

(報文社稿)





要翻譯

號20813

要旨付了

大正九年拾月拾九日接受

管政務 箋課

即庚申第四五號

敬啟者頃奉本國外交部電開會查員  
王鴻年等乘日艦赴廟街據稱承日本  
海陸軍司令優予招待希將政府感  
謝之意轉達等因准此相應函達即希  
察照為荷茲本代使對於  
貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年十月十六日

中華民國臨時代理公使莊

外務大臣伯爵內田康哉閣下



中華民國駐日本公使館

詔文

<p>王鴻年等日本軍艦ニ于尼港ニ赴キタル事          日本陸海軍司令官ヨリ慰勞待遇ヲ賜ヘ          ラルニ 趣ニ付 政府感謝ノ意ヲ傳達セヨト          ノ旨電報越日ニ付 右奉 翰ヲ以テ中達ス          奉旨查閱ス奉旨 茲ニ奉代理公使ハ 貴          大臣ニ向テ 特ニ 敬意ヲ表シ 矣 謹具</p>	<p>中華民國十九年十月十六日</p>
--	---------------------

十 卷 第



夕  
卷  
省

中華民國臨時代理公使

莊  
璣  
珂

外務大臣 伯耆 内田 康 母 閣下

3122

1922 (暗)

北京 大正九年三月五日 暗

小幡 三使

内閣外務大臣

第一一九號

貴電中五七〇号及五七一號、閣下福州事件及彈着事件等交渉事  
件輻輳、折柄ナリレノミナラス、配原少佐ノ  
来着ノ候々島ト調査ノ結果又政府ノ修  
意尙知悉シタル上、方、豫ルニト考ヘ、今談  
ヲ展控、右リタル如 同少佐ニ来着シタル、付

福州

成ルヘク速ニ交渉。取掛タル事ナルカ貴電  
中五七〇号及彼帛懸、方、修ニ付テハ、右交渉  
ノ際、我方ヨリ帛懸會 交渉ヲ要求シ、殊ニ  
其金類ヲ云々スル事トハ、本件ニ関スル海軍  
部長ノ初メ支那側ノ比較的ニ正ナル態度  
。顧ミ、且ツ我方、要求トシテ、支那側内部ニ  
対スル政府ノ立場上直ニ之ヲ承認スルヲ避クル  
等却テ種々面倒ヲ生スレト思料 セラレ  
ルニ付、要出案次第ニ付テ、本使ニ付テ  
申入レテ、何等其内容。言及セズ、支那政府



ノ法を、悉クノ形式ヲ執リ、何レ定即側ヨリ内  
議アルハキニ付、其節ハ前中依其他ノレテ、裏  
面ヨリ、中本ホノルキ、陰謀ニ至ル、協合カア、裁マ  
レシ、以テ帝國政府ハ期ノ目的ヲ達スル方定  
海土、体裁モ宜シク又事件ノ解決、比  
較的容易ナラシムヘト、信ス。右ニ、中、異存ナキヤ  
折返、回調ノ條ヲ

大正九年拾月廿貳日 接

駐露公使館 第二課

大正九年十月二十日

午後三時四十五分 北京 支那  
午後十時五十五分 海軍省 着

在支公使館附武官

海軍次官

大正

四一七番(暗簿)

貴電第三五六番電尾港事件交渉ハ土肥

次方

原少佐来着セサルト他ニ交渉案件種々アリ

外務大臣

タル為未タ交渉ヲ開始セラザリニ所ニ肥原

少佐昨十九日到着セルニ付不日交渉ヲ開始

セラルル旨ナリ而シテ陳復劉筆武等歸京後

同人等トノ會談及吉田少將ト薩總長トノ

往復中其談話等ヲ綜合スルニ薩總長ハ

砲艦事件

尾港ニ於ケル支那軍艦ニ関スル風説ノ事實ハ

ヲ深ク意外且遺憾トシ然モ支那砲艦ノ

斯ナル行為アリタルニ拘ラズ我海軍ハ之ニ対シ

援助ヲ禁ヘラレタルヲ衷心ヨリ感謝シ屢々之ヲ

言明シ尙因総長ハ一日モ早ク該事件ノ結末

ヲ見ントトテ款ミソフアリテ陳艦長ノ處罰

更迭ノ如キハ直ニ決行セントスル如キ意氣ハ込

ナリ從ッテ王宗文ノ謝罪ノ如キハ何等問題

トナラサルヘント思考セラル 然ルニ我提出條件中

最後ノ死者一名ニ付五十円宛七百人ニ付シ

三万五千円ヲ奉慰金トシテ贈ラシメントスル

如キハ直接支那側ノ責任ヲラサレ者ニ迄支那側ヲシテ吊慰金ヲ出サシムル結果トナリ其他ノ条件ハ全部容ルルトスルモ之ノ問題トシテ結局速ニ結了スル問題ヲ殊更ニ紛糾セシムル因トスルハセヤシク察セラルルノミナラス日本人一名ノ値僅ニ五十圓ニ限定スルノ懸念アリ五十圓ニテモ二万円ニテモ吊慰金ハ吊慰金ナルモノヲ以テ金額ヲ要示スルコトナク寧ろ支那側ヨリ自發的ニ相当額ヲ出サシムルコトスルハ方事件解決上利益アルヘシト思考ニ卑見ハ公使迄申述ヘタル所公使ハ之ヲ容レ本日外務大臣

ニ意見電報セラレシ各ナリ  
尚小官ノ觀察ニ依ルニ薩長ハ誠心誠意連ニ此案件ヲ解決セントスル意向確實ナルヲ以テ交渉開始セラルルハ吊慰金問題ハ前途ノ如ク別トシ他ハ何等問題ナク解決セラルヘシト觀測セラル

二十日

電信課長

大臣

次官

政務

通商

要目付

情報

人事

會計

文書

條約實施

支那の事情

北京支那 大正九年三月五日

小幡 公使

留外務大臣

才二二九號

貴電才五七〇号又才五七一號。閱し湖南事件福州事件及彈着事件等交渉事件輻輳、折柄ナリし、ミナリス、正肥原少佐ノ来著シ候々島ト調査ノ結果及政府ノ御意尙知悉シタル上、方、殆ルニト思考シ合談ヲ展控ヘ右リタル函同少佐ニ来著シタルニ付

成ルヘク遠シ交渉。取掛カル考ナルカ貴電才五七〇号及彼帛懸、方法ニ付テハ右交渉ノ際我方ヨリ帛懸金支拂ヲ要求シ殊ニ其金額ヲ云ハスルコトハ本件ニ関スル海軍部長ノ初メ支那側ノ比較的公正ナル態度ニ顧ミ且ツ我方ノ要求トアレハ支那側内部ニ対スル政府ノ立場上直ニ之ヲ承認スルヲ避クル等却テ種々面倒ヲ生スレト思料セラレルニ付要求事項才四項、付テハ本使ニ始メ申ノトシテハ何等其内容。言及セズ支那政府



ノ決定ニ秀スノ形式ヲ執リ何レ支那側ヨリ肉  
 續アルハキニ付其節ハ角中依其他ヲレテ裏  
 面ヨリ中本ホノ如キ結果ニ至ル所カテ試マ  
 レシ以テ帝國政府末期ノ目的ヲ達スル方交  
 渉上ノ体裁ニ宜シク又事件ノ解決ハ比  
 較的容易ナラシムヘト信ス右ニテ中異存ナキヤ  
 折返回訓ヲ請フ

電信課長

平

大臣

次官

政務

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

15788 (暗)

北京 大正六年十月五日 五五  
 本省著

小幡 公使

内田 外務大臣

中二三三號 玉急

貴電中五七一號、閣下(陳謝レ)ト(遺  
 憾ノ意ヲ表レ)トノ區別ハ漢文ニテハ如何  
 文字ヲ以テ顯ハスフトトシテ如何ヤ至急回電  
 清フ



手向  
 取

宛  
 宛

電信課長

大臣

次官

15796

(暗)

北京  
本館  
大正九年十月五日

小幡 公使

小幡 公使

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

要旨  
内田外務大臣

中二三四條

(支那砲艦事件解決方)

貴電中五七〇條 未段 閣下 共同判決文

要領ニテハ 夫カ 論議ヲ 招クノ 虞ニ 付 全文

ヲ 表ノ ナトト 致シヨシ 又 貴電中五七一号 中 一項

公文ニ 表、 際ハ 何レモ 英譯ヲ 爲 表スル 必要アリ

リト 存セラルニ 付 右ノ 内 共同判決文ハ 今ヨリ 貴方

ニ 英譯ノ 上 添メテ 却 送シ 得 宜キナレ 尚 本件

砲艦事件 概要 判決文 (右英譯共) 今  
ヨリ 貴方ニ 在 支 領 事、 却 報シ 宜カレタリ

大臣

河野 正

宛先

下

電信案 (12%)

政務局長

政務三課

河野 正

在支 少島 三郎

要旨

第60号

答復第1219号ノ件ハ答見ノ通リナリ

ハレ 宛先

電送第 9275 番  
大正 9 年 10 月 25 日 時 分 秒

外務省

5-1457



文書課長

大正九年十月廿八日 接受



大正 年

月

日起 章

同 年 十月

廿五日

日 附

大正九年十月廿八日 發送 濟

政一送第 八號

主任

主管

政務局長

内白八五

在在邦

莊支那代理公使

(支那砲艦共同調査員厚遇ニ對シ)

ニ謝意傳達方ノ件

以書翰致啓上候 陸海軍共同調査員

外務省

王鴻年氏等ニ對シ陸海軍司令官

ヲ受ケル厚遇ニ對シ貴國政府ノ謝意

傳達方本月十日外廣字第四五號ヲ以テ

御申越<sup>ル</sup>致敬承<sup>ル</sup>右ニ早速陸海軍

兩省ニ及移牒置<sup>キ</sup>旨右様御承知

相半度此後回春亭<sup>ニ</sup>在<sup>リ</sup>茲ニ重<sup>ク</sup>

貴下ニ向<sup>テ</sup>敬意ヲ表<sup>ス</sup>候 敬具

5-1457

0089

歐洲戦争後國情變遷 在尼文化進歩の爲

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

情報

人事

會計

文書

條約實施

七〇二七  
北京発  
本省着  
大正九年十月  
二十六日午後五〇  
二十七日午前九、五〇

要旨付内田外務大臣 小幡 公使

第一一三二號

尼港事件ニ関シ十月二十六日外交総長ト會見  
貴電第五七一號我が要求條項覺書（共同判決  
書字ヲ添付セリ）ヲ手交シテ詳細説明ヲ加ヘ  
且ツ条件ニ對スル我が要求條件ハ一見シテ甚  
ク寛大ナルヲ認め得ベク殊ニ同総長ニ於テ試



こゝ自己側委員ノ二人ニ付其ノ實際ニ得  
タル心証ヲ叩クニ於テハ必ずヤ遠カニ共同判  
決書所載事項ヨリ甚シキモノアルヲ 覺知ス  
ルニ足ルベク就テハ我が要求ニ對シ或ハ詳ヲ  
設ケテ辯疏シ為メニ事件ノ解決ヲ遲延セシム  
ルカ如キコトナキヲ期待シ居レル旨申添ヘタ  
ル処 總長ハ良ク諒解シタリト述べ條件ニ付キ  
考量ヲ遂ゲタル上回答スベシト約シタリ

秘

陸軍大臣宛  
支那公使官附武官

大正九年拾月二十七日  
午後五時三十分着

支七五三

支七五三

土肥原少佐ノ報  
土肥原少佐ハ北京着以來尼港事件ニ  
関スル支那委員及薩總長ニ會見セリ

而シテ談調査ハ日本支那西委員間ニ誠  
實アル涼解ヲ得テ事無ク解決セシハ結  
構ナリ

尚ホ近ク交渉スヘキ事件ニ付キ談委員  
ハ殊ニ日本當局ニ於テハ聰明ノ用エ高キ

薩總長ノ盡力ニ依リ我カ正當ナル要求  
ヲ容レ迅速ニ解決セラレタキ旨ヲ申入レタル

遺憾トスルコト並ニ及スナカラ何トカ盡力  
スヘキ旨ヲ答ヘタリ

遺憾トスルコト並ニ及スナカラ何トカ盡力  
スヘキ旨ヲ答ヘタリ

大正九年拾月廿八日接受

陸軍省 第一課

大臣同文

十月二十七日

電報

十月二十六日午後三時五分發  
午後六時五分發

總長

(要旨)

宛

在

北京公使館附武官

秘 13838 號

支那七五三号) 土肥原少佐、言

土肥原ハ北京著以來尾港事件ニ関スル支那委員及薩總  
 長ニ會見シテ該調査ハ日支西委員間ニ誠意ニ諒解ヲ  
 得テ事無ク解決セシハ結構ナリ尚近ク開會セラルル該  
 委員會ニ殊ニ日本當局ニ於テ公明、(六字不明) 薩總長  
 盡力ニ依リ我々正當ナル要求ヲ容レ迅速ニ解決セラレ  
 度旨ヲ申入レタルニ薩鎮冰ハ本件、如キ事件ノ發生ヲ  
 遺憾トスル事迄不及何トカ盡力スル旨ヲ答ヘタリ

陸軍

支那艦

5-1457

0092

大正九年拾月廿九日 獲

陸軍部 第二課

十月二十八日

十月二十七日午後七時五分

午後七時五分

陸軍部

東少将

宛在

電報

文第七五五號

秘

秘 13898 號

五所 記帳 下件

十月二十八日	十月二十七日午後七時五分	午後七時五分	陸軍部	東少将	宛在	電報	文第七五五號	秘	秘 13898 號	五所 記帳 下件
本二十六日朝公使ハ、顏外交總長ニ會見シ、尼港支 那砲艦射撃事件ニ關スル交渉事件ヲ提出セリ、顏 總長ハ事重大ニテ即答シ兼ヌルヲ以テ政府ニ於テ一 應考慮ノ後回答スヘシト答ヘタル由ナルカ、午後薩海 軍總長カ土肥原少佐ニ語ル所ニヨルニ、顏總長ハ 直ニ該案件ヲ新總理ニ提出シタルニ、總理ハ我要求 ハ概シテ穩當ニシテ處辨シ易キ旨語レル由ク、薩 總長ハ土肥原ニ對シ要求條件一第四項中吊慰 陸軍 法一云々ノ件ハ如何ナル手段ニ依ルノ意ナリヤト問ヒタ レ、以テ同少佐ハ一般東洋ノ風習ニ則リ若干ノ金ヲ 催突者ノ靈前ニ供ハ遺族ヲ慰安スルニアルヘシ其全 額ハ支那ノ体面上適當ト認メラルル額ヲ自給的 ニテ懸供セラルルノ要アリトシ信スル旨ヲ答ヘタルニ 薩ハ尚當部支那委員長タル陳復ヲシテ貴 官ト裏面的打合ヲナシ向接ニ意思ノ疎通ヲ図ル カ便トスヘシ云々ト語レル由										



文書課長

大正九年十月廿八日 接愛

98



大正 九年 十月 廿九 日 附

同 九年 十月 廿九 日 附

大正九年十月廿九日 發送済

別紙

支那 陸軍 第五〇五號

主任 藤原 三郎

要旨了

主管 政務 局長

田中 陸軍 大臣

加藤 陸軍 大臣

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

外務 省

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

支那 砲艦 共同 調査 委員 會

決  
官

秘

會計課長  
林 幸次郎

歐米局長

歐米第一課

（印）

篠塚少佐ヨリ先ノ函リ申出アリキ  
支那砲艇子機費用

金五老分多千六拾五圓四拾九角

右陸軍省ヨリ支出セザル事ニ  
外務省ヨリ支出スル取計アリキ

（九十六二）

陸軍省軍務局課員  
陸軍歩兵少佐 篠塚 義男

（電送省内三四）

外  
務  
省

5-1457

0095

歐米...

大正九年十月廿九日

支那公使館附武官

支那

十月廿八日午前五分

支那公使館附武官

電報

陸軍大臣宛

支那公使館附武官

大臣

支七六一

次友

昨日支第七五五號 庇港事件 不...

金ノ事ニ就キ海軍部副官陳復ハ...

肥系少佐ヲ訪ヒ日本側ノ意向ヲ...

分輿論動搖ノ時機ナシ成ル...

ラサラン事ヲ懇願シ三人ノ死亡者ニ...

六千元位ニテハ如何ト述ヘタル...

佐ハ本件ハ支那國ノ体面ヲ重シ...

ノ自發的意志ニ任ス事トシタル...

十九日次テ日本側ニテハ金額ヲ...

限りニアラザルモ直接殺サレ...

ナリトハ講ヘ之ノ及ホセ...

ナルモノアルヲ以テ充分考慮...

答ヘタルニ陳ハ然ラハ二元位...

謂ヒ之ニハ少佐ヨリ何等明答...

ナリシモ此レニテ答ホ支那側...

解リタルヲ改テ同時ニ之ヲ公...

タル處公使モ他ノ條件ハ決...

歩セサルモ帛慰金公使來支...

衆的意志ニ任ス事トセシモ...

ノ希望ニ近ケレハ多少ノ下...

シ夫レヨリハ一瀉千里ノ快...

ンコト必要ナリトノ意見ナル...

ハ更ニ陳ト會見シ公使ノ意ノアリ處ヲ  
傳ヘ陳ハ之ヲ基礎トシ案ヲ立テ本曰ノ  
閣議ニ呈出シテ決議ス可ク語シタリ  
從テ本件ノ決着ヲ見ルハ多クノ時  
曰ク要セザル可シト判断セラレ

片後了外

電信課長

守

大臣

次官 植

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

第門

北京支店 本年十一月三日 四月三日  
本署着

内田外務大臣 小幡公使

第一一五七號

三日陳復亦肥原ヲ未訪ニ首電ヲ五  
七一号要求條項第二項ハ浦潮ニ到リ内地司  
令官ヲ訪問スルノ趣旨ト思考スル虞果セラ然  
ル中念ノ為承知ニキ旨申述スルニ付亦肥  
原ハ明登ヲ留保シ使使ヲ尋不置ク一キ旨申  
聞テ置キ又ハ趣テリ在ハ原文ニ付港守備隊  
所属トアリルニ顧ミ貴方御意向ニ先方解致

ノ通ト存心ラレ且ツ實際問題トミテ亞港  
邊外カニハ此要ナリ浦潮ニ到テ存心ラ  
ルルガ在様陳復ノ答ニ付然レ一キ旨申  
為不急所回示ヲ請フ尚ハ電界一一二三號  
ノ件ニ急電報アリ也

大正九年七月參日 叢

主歐齋了 第二課 叢

大臣同文

十月二十九日

電報

十月行及後中 公署

總長 宛

在支那公使館附武官

支那七六一号

秘 14078

次友了

祝艦了

廿六日第七五五號、尾港了件吊慰金ノコトニ  
 就中海軍部副官 陳復ハ土肥原少佐ヲ訪ヒ  
 日本軍側ノ意嚮ヲ尋ネ何分輿論勃興ノ心配  
 正アルハ可成多額ニ上ラサレシコトヲ懸念シ三人  
 ノ此傷若ニ討シ六千元位ニテハ如何カト速ヘ夕  
 レニ依リ同少佐ハ支那ノ体面ヲ尊重シ其自  
 己的意志ニ任スコトハソレモソナルヲ以テ日本  
 側ニテ金額ヲ云ケル長リニアラサルニ直接  
 陸軍

シタルハ三名ナルトハ、及ホセル苦痛ハ歎ル  
 べシトモナル故充分考慮セシメテ答ヘタル陳  
 復ハ二万九千五百元如何ト云フニ少佐ヨリ何等  
 ノ答ヲ與ヘザルコトハ即例ノ意嚮ヲ解  
 明スルヲ以テ同少佐ハ之ヲ公使ニ報告シタル所公  
 使ハ個々ノ條件ハ決シテ譲歩セシメテ吊慰金ハ元來  
 支那ノ自發的意志ニ依リテ日本ノ希望ニ  
 近シクハ多少ノ(以下電文不明)ヲ破リテ馮  
 使快ヲ解決シ見シコト、必要ナルハ、懸念アル依リ少  
 佐ハ更ニ陳復ニ會見シ公使ニ意ヲ示シ所ヲ傳ヘ陳  
 復ニテ基礎トシ一果ヲ立キ本ノ閣議ニ提出シテ  
 協義スルハ、迄ナリ、遂ニ本件ノ結果ヲ見ルハ左ニテ

時日ヲ要スザルヘント考ヘテ

要  
開

機  
密

情報部  
第二

急

海軍  
外務部三件  
日方

文書課長

松原

大正九年三月三日 差一

59

文書課

大正 九年 三月 三日 附

大正九年三月三日 發送

機密第四號

主任 第一課

主管 歐米馬長

歐米馬長

内務省警保局長

尾港ニ於ケル支那砲艦事件ニ関

スル新聞記事ニ取締方ノ件

外務省

本件ニ関シ過般當省主任官ヨリ貴省  
主任官ニ對シ記事ニ掲載差止方及以依  
頼垂候處ニ米西米日調査結果ニ  
付テ右調査ノ結果ニ基キ其事  
案ニ對シテ裁可中ニ在リ  
方々ノ通書更政度ニ付右様以テ  
上可知以テ計本度ニ候申進候也  
一、日支共同調査判決書ノ内卷ノ該

判決書ノ形式ヲ以テ記載スルモノハ之ヲ禁止  
ス但シ北京ニ於ケル日支交渉経過ノ一部ト  
レテ之ニ触ルルモノハ此ノ限ニ在ラス

ニ北京ニ於ケル日支交渉ノ経過及内容ハ西玉  
政府間ノ申合ニ依リ政府ニ於テハ之ヲ発  
表セサルヘキモ右ニ関スル新聞通信ノ記  
事又ハ電報ノ掲載ハ林示止

外務省





支那  
支那  
支那

尼港ニ於ケル支那砲艦砲撃問題、  
新南記事ニ関シ内務省警保局ヨリ内容

尼港支那砲艦砲撃問題ニ就キ日支共同調査、  
内容ニ関スル記事ハ禁止事項ナル処最モ之レニ関シ日支  
両手交渉、経過ヲ掲載スル新南紙アリ是レ年禁止  
事項ニ加フハキヤ (大正九年十月二十九日)

右ニ対スル回答要領

從來、禁止事項ニカ、ハル共同調査ノ内容ニ就テハ  
陸海軍當局ハ協議ノ上解禁スルヲ否ヤヲ決定  
スル迄依然禁止スヘキモ日支交渉ノ経過ニ関スル  
記事ハ之ニ交渉開始ノ今日ニ在リテハ差支ヘナキ  
モノト認ム (同日)

同件ニ関シ内務省警保局ヨリ再由右

外務省

尼港支那砲艦砲撃問題ニ付キ日支両手交渉ニ  
関シ新南通信ノ記事又ハ電報中ニハ共同調査  
ノ内容ニ觸ルルモノアリ此際該禁止事項ヲ解禁  
シテハ如何 (同日)

右ニ対スル回答要領

日支共同調査判決書ノ内容ヲ該判決書ノ形成  
ヲ以テ記載セルモノハ依然禁止スヘキモ日支交渉  
経過ノ記事ノ一部トシテ之レニ觸ルルモノアルモ差支  
ヘナシ 追テ詳細ハ文書ヲ以テ通知スヘシ  
大正九年十月二十九日



電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

北七二  
暗

北京長天正九年十一月四日午後一三〇  
至著者。九三〇。

内閣外務大臣 小幡公使

第一一五九院

往電第一一三二院之閣

十一月三日外交總長定例會見日ニ付本使同  
總長ニ會見支那政府ノ回答ヲ督促シタル後同  
總長ハ貴國提出條件中ノ第二項及第三項  
ハ海軍部ノ關係ナルヲ以テ同部ニ移牒シ  
目下審リニ註議中ナルニ付(往電第一一五  
七院参照)進テ同部ノ回答ヲ待テ他ノ二

項ト纏メテ正式ニ回答スヘシト答ヘタリ  
尤モ同總長ハ第二、第三、四項ニ付テハ蓋シ  
テ異議アリトモ認メラレサレ如キは吻ツ時ニ  
タルニ第一項ニ付テハ近年來兩國間ニ頻發  
スル事件ハ大小雖モモ常ニ支那政府ヨ  
リ日本政府ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スル一平標相  
成増ハ極スル例ハ他ノ外國トノ交渉事件ニ  
於テ餘リ多ク見サレ次第ナルノミナラス亦  
ハ却テ國民ノ強解ヲ招クノ因トナルニ付歐  
ルニ夕兩國政府ハ各種發生事件ノ實質ニ



重キリ置キ因滿迅速ニ解決スルコトト致シ  
度々元來在件第一項ノ如キモ事件其ノ物  
ハ支那政府ノ命令ニ依リ起リタル次第ニモ之  
ナリ將又出光海軍官憲ニ於テモ故意ニア  
ラス自衛上為シタルニ外ナラザルヲ以テ公  
文ニテ支那政府ガ遺憾ノ意ヲ表シ且ツ之  
ヲ公表スルコトハ正當ナラザルノミナラス自  
然氏間ソレヲ種々ナル誤解ヲ懷カシテ斯ル  
事ノ為兩國親善ノ實現ヲ宛角ニ誤ラシム  
ルハ頗ル残念ニ堪ヘザル所ナリ尤モ自分ニ

於テ全然遺憾ノ意ヲ表セスト云フニハテ  
ラサルモ斯ル政府間ノ公然タル手續ハ避ケ  
ズキモナリト述ベタルニ付

(續)